

うらのみょうちく いせきぐん  
浦之名地区遺跡群

特別高圧送電鉄塔建設事業にかかる埋蔵文化財調査報告書

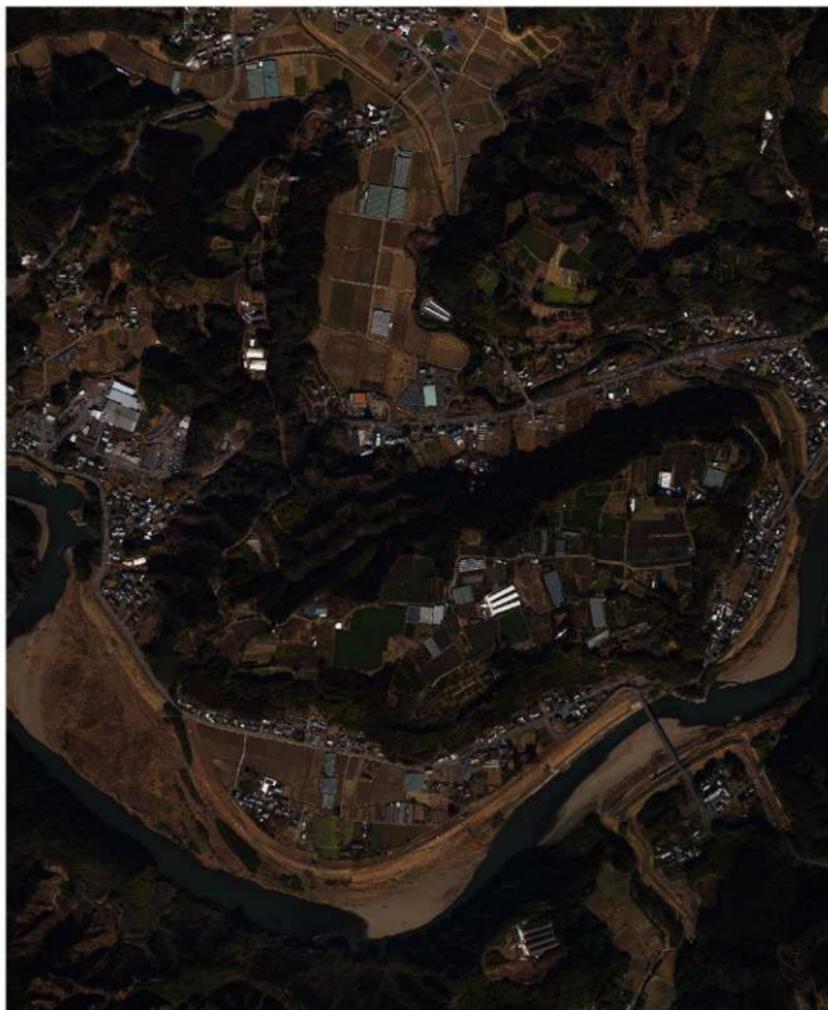


2021

宮崎市教育委員会



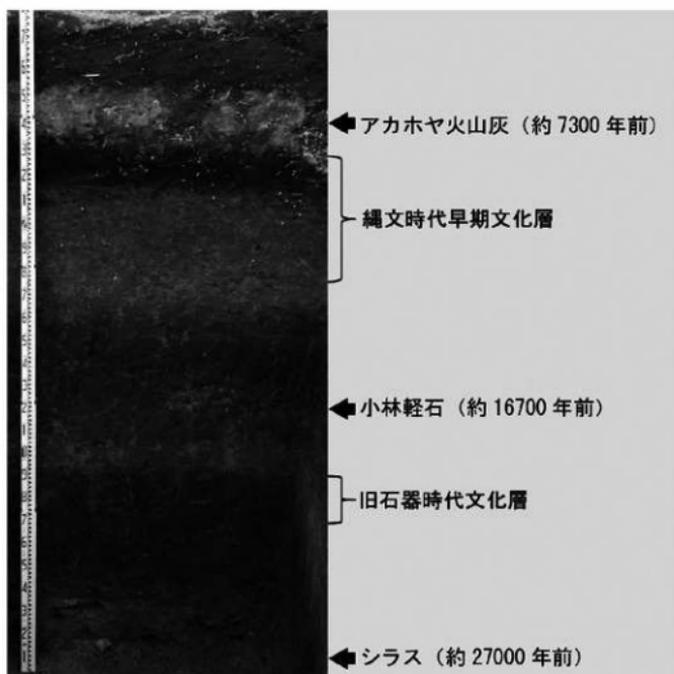
浦之名遺跡群のある伊勢ノ原台地と大淀川



浦之名遺跡群のある伊勢ノ原台地空中写真

うらのみょうちく いせきぐん  
浦之名地区遺跡群

特別高圧送電鉄塔建設事業にかかる埋蔵文化財調査報告書



2021

宮崎市教育委員会



## 序

本書は平成 29 年度に特別高圧鉄塔建設工事に伴って発掘調査が行われた浦之名地区遺跡群の発掘調査報告書です。

浦之名地区遺跡群は宮崎市高岡町の中央を流れる大淀川左岸にある伊勢ノ原台地に所在する遺跡群で、今回は 3 遺跡で 4 箇所が発掘調査が行われました。

これらの調査では縄文時代の集石遺構や陥し穴状遺構が発見されており、狩猟・採集生活を行っていた縄文時代の人びとの暮らしぶりを垣間見ることができました。また、大分県や熊本県を産地とする黒曜石製の石器も出土しており、これらの調査成果は、当時の人々の行動を解明する上でも貴重な資料となります。

本書が学術資料としてだけでなく、学校教育や生涯学習などにも活用され、埋蔵文化財保護の理解につながれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査の実施に関しまして理解とご協力を賜りました事業者の皆様や地元の方々から感謝し御礼申し上げます。

令和 3 年 2 月

宮崎市教育委員会  
教育長 西田 幸一郎

# 例 言

1. 本書は特別高圧鉄塔建設工事に伴って行われた宮崎市高岡町浦之名に所在する浦之名地区遺跡群（橋上遺跡・浦之名上原遺跡・松ノ元遺跡）の発掘調査報告書である。
2. 本業務は民間事業者から委託を受けて平成29年度に実施している。また、整理作業は平成30年度から令和2年度にかけて行われた。
3. 調査組織は以下のとおりである。

調査主体：宮崎市教育委員会

平成29年度（発掘調査）

文化財課 課長	羽木本光男
総括 主任管理文化財係長	井田 篤
調整担当 主査	金丸武司
庶務担当 主事	杉尾 悠
調査担当 主査	稲岡洋道（松ノ元遺跡担当）
主査	秋成雅博（橋上遺跡担当）
主任技師	石村友規（浦之名上原遺跡担当）
嘱託	川野誠也
嘱託	大嶋昭海（現公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター）
嘱託	今井直緒（現延岡市教育委員会文化課）

平成30年度・令和元年度（整理作業）

文化財課 課長	富永英典
総括 主任管理文化財係長	井田 篤
調整担当 主査	稲岡洋道
庶務担当 主事	杉尾 悠（H30）
主事	高田真帆（R1）
整理担当 主査	稲岡洋道
主査	秋成雅博
主査	石村友規
嘱託	船石涼代

令和2年度（整理作業）

文化財課 課長	白坂 敦
総括 主任管理文化財係長	井田 篤
調整担当 主査	秋成雅博
庶務担当 主事	高田真帆
整理担当 文化財整備活用係長	稲岡洋道
主査	秋成雅博
主査	石村友規
会計年度任用職員	船石涼代

4. 遺構の実測は稲岡・秋成・石村・川野・大嶋・今井が行った。
5. 遺物の実測は生目の杜遊古館にて稲岡・秋成・石村・船石及び整理作業員が主体となって行い、一部の石器実測図及び遺物分布図の作製を（有）ジバングサーベイに委託した。

- 遺構の写真撮影は福岡・秋成・石村が行い、伊勢ノ原台地の空中写真については九州航空株式会社委託した。また遺物の写真撮影については福岡・秋成・石村が行った。
- 本書で使用する北は真北である。
- 本書で使用する遺構の略記号は以下のとおりである。  
SI：集石遺構 SC：土坑・陥し穴状遺構
- 本書で使用する図面の縮尺は以下のとおりである。  
集石遺構・土坑・陥し穴状遺構(S=1/30)  
遺物分布図(S=1/30、S=1/60)  
土器(S=1/3)、剥片石器(S=2/3)、礫石器(S=1/2)
- 本書の執筆は第1章・第4章を石村が、第2章・第5章を福岡が、第3章を秋成が行った。編集については各担当で行っている。
- 出土遺物及び掲載図面・写真は宮崎市教育委員会が保管している。資料の閲覧・利用に関しては、事前に宮崎市教育委員会までお問い合わせいただきたい。
- 本発掘調査にかかる文書手続きは以下のとおりである。

#### 橋上遺跡(第5・6地区)

確認調査完了報告 平成29年8月7日 宮教文第243号11(第5地区)

平成29年8月7日 宮教文第243号12(第6地区：範囲変更)

平成29年8月10日 範囲変更の決定

工事届(文化財保護法第93条) 平成29年8月29日 宮教文第503号1(進達)

平成29年9月4日 宮教文第503号3(伝達)

#### (第6地区)

着手報告(文化財保護法第99条)平成29年10月26日 宮教文534号6

発掘調査期間 平成29年10月23日から平成29年11月10日

終了報告 平成29年11月14日 宮教文第534号8

発見通知 平成29年11月15日 宮教文第534号7

保管証 平成29年11月27日 宮教文第534号9

#### (第5地区)

着手報告(文化財保護法第99条) 平成29年12月1日 宮教文534号12

発掘調査期間 平成29年11月27日から平成29年12月21日

終了報告 平成29年12月26日 宮教文第534号15

発見通知 平成29年12月26日 宮教文第534号16

保管証 平成30年1月10日 宮教文第534号18

浦之名上原遺跡

試掘調査完了報告 平成29年8月7日 宮教文第243号14(新規発見)

平成29年8月10日 新規登録

工事届(文化財保護法第93条) 平成29年8月29日 宮教文第504号1(進達)

平成29年9月4日 宮教文第504号3(伝達)

発掘調査期間 平成29年10月23日から平成29年11月27日

着手報告(文化財保護法第99条) 平成29年10月25日 宮教文第534号5

終了報告 平成23年11月30日 宮教文第534号11

発見通知 平成29年11月30日 宮教文第534号10

保管証 平成29年12月5日 宮教文第534号13

松ノ元遺跡

試掘調査完了報告 平成29年8月7日 宮教文第243号9(新規発見)

平成29年8月10日 新規登録

工事届(文化財保護法第93条) 平成29年8月29日 宮教文第505号1(進達)

平成29年9月4日 宮教文第505号2(伝達)

着手報告(文化財保護法第99条) 平成29年10月19日 宮教文第534号4

発掘調査期間 平成29年10月12日から平成29年12月25日

終了報告 平成30年3月2日 宮教文第534号22

発見通知 平成23年12月25日 宮教文第534号14

保管証 平成29年12月28日 宮教文第534号17

## 本文目次

第I章 遺跡周辺の環境	1
第1節 地理的環境	1
第2節 歴史的環境	1
第II章 調査に至る経緯	5
第III章 橋上遺跡の調査	5
第1節 第5地区の調査	5
第2節 第6地区の調査	9
第3節 橋上遺跡の調査成果について	14
第IV章 浦之上原遺跡の調査	20
第1節 調査の概要	20
第2節 調査の成果	20
第3節 まとめ	26
第V章 松ノ元遺跡の調査	
第1節 遺跡周辺の環境と調査の概要	30
第2節 遺構について	32
第3節 遺物について	36

## 挿図目次

第1図 橋上遺跡・浦之上原遺跡・松ノ元遺跡周辺の遺跡分布図 (S = 1/15000)	2
第2図 橋上遺跡調査地周辺地形図 (S = 1/4000)	3
第3図 浦之上原遺跡・松ノ元遺跡調査地周辺地形図 (S = 1/5000)	4
第4図 橋上遺跡第5地区調査区配置図 (S = 1/400)	7
第5図 橋上遺跡第5地区基本土層図 (S = 1/30)	7
第6図 橋上遺跡第5地区トレンチ2・3遺物分布図 (S = 1/30)	8
第7図 橋上遺跡第5地区トレンチ4遺物分布図 (S = 1/30)	9
第8図 橋上遺跡第5地区縄文早期遺構 (S = 1/30) 及び出土遺物実測図 (S = 1/3・2/3・1/2)	10
第9図 橋上遺跡第5地区3層・4層出土遺物実測図 (S = 1/3・2/3)	11
第10図 橋上遺跡第6地区調査区配置図 (S = 1/600)	15
第11図 橋上遺跡第6地区基本土層図 (S = 1/30)	15
第12図 橋上遺跡第6地区トレンチ1・2遺物分布図 (S = 1/30)	16
第13図 橋上遺跡第6地区トレンチ3・4遺物分布図 (S = 1/30)	17
第14図 橋上遺跡第6地区縄文早期集石遺構 (S = 1/30) 及び出土遺物実測図 (S = 1/3)	18
第15図 橋上遺跡第6地区3層・4層・9層出土遺物実測図 (S = 1/3・2/3・1/2)	18

第 16 図	浦之上原遺跡調査区配置図 ( $S = 1/600$ )	21
第 17 図	浦之上原遺跡基本土層図 ( $S = 1/30$ )	21
第 18 図	浦之上原遺跡(トレンチ A・トレンチ B) 遺物分布図 ( $S = 1/30$ )	22
第 19 図	浦之上原遺跡トレンチ C 遺物分布図 ( $S = 1/30$ )	23
第 20 図	浦之上原遺跡縄文時代遺構 実測図① ( $S = 1/30$ )	24
第 21 図	浦之上原遺跡縄文時代遺構 実測図② ( $S = 1/30$ )	25
第 22 図	浦之上原遺跡縄文時代 出土遺物実測図 ( $S = 1/3 \cdot 1/2$ )	26
第 23 図	松ノ元遺跡調査区配置図 ( $S = 1/800$ )	30
第 24 図	松ノ元遺跡基本土層図 ( $S = 1/30$ )	31
第 25 図	松ノ元遺跡遺構配置図 ( $S = 1/400$ )	32
第 26 図	松ノ元遺跡縄文早期集石遺構 実測図 ( $S = 1/30$ )	32
第 27 図	松ノ元遺跡 A 区・B 区遺物分布図 ( $S = 1/30$ )	33
第 28 図	松ノ元遺跡 D 区遺物分布図 ( $S = 1/30$ )	34
第 29 図	松ノ元遺跡 E 区遺物分布図 ( $S = 1/60$ )	35
第 30 図	松ノ元遺跡 III 層・IV 層・IX 層 出土遺物実測図 ( $S = 1/3 \cdot 2/3$ )	37
第 31 図	松ノ元遺跡 III 層・IV 層 出土遺物実測図① ( $S = 1/3$ )	38
第 32 図	松ノ元遺跡 III 層・IV 層 出土遺物実測図② ( $S = 1/3 \cdot 2/3$ )	39

## 表目次

第 1 表	橋上遺跡第 5 地区出土土器 観察表	45
第 2 表	橋上遺跡第 6 地区出土土器 観察表	45
第 3 表	浦之上原遺跡出土土器観察表	46
第 4 表	松ノ元遺跡出土土器観察表①	46
第 5 表	松ノ元遺跡出土土器観察表②	47
第 6 表	橋上遺跡第 5 地区出土土器計測分類表	48
第 7 表	橋上遺跡第 6 地区出土土器計測分類表	48
第 8 表	浦之上原遺跡出土土器計測分類表	48
第 9 表	松ノ元遺跡出土土器計測分類表	48

## 図版目次

巻頭図版 1	伊勢ノ原台地遠景	
巻頭図版 2	伊勢ノ原台地空中写真	
図版 1	橋上遺跡第 5 地区遺構写真	12
図版 2	橋上遺跡第 5 地区遺物写真	13
図版 3	橋上遺跡第 6 地区遺構・遺物写真	19
図版 4	浦之上原遺跡遺構写真①	27
図版 5	浦之上原遺跡遺構写真②	28
図版 6	浦之上原遺跡遺構・遺物写真	29
図版 7	松ノ元遺跡遺構写真①	40
図版 8	松ノ元遺跡遺構写真②	41
図版 9	松ノ元遺跡遺構写真③	42
図版 10	松ノ元遺跡遺構写真④	43
図版 11	松ノ元遺跡遺物写真	44

## 第1章 遺跡周辺の環境

### 第1節 地理的環境(第1図)

浦之名地区遺跡が所在する宮崎県宮崎市は九州島の南東部に位置する。市域の大部分は宮崎平野の南端に位置するが、北西側は九州山地、南西側は鰐塚山に代表される南那珂山地が連なる。市街地の中心には、県下最大の河川である大淀川が流れ、この大淀川の沖積作用によって現在の宮崎市街地が位置する沖積平野が形成された。

浦之名地区遺跡群は宮崎市街地の西部に位置し、大淀川の北岸に形成された段丘上に立地する。段丘は大淀川とその支流である内山川によって北西側を除き画されており、爪先を東に向けた長靴のような形状となっている。浦之名上原遺跡と松ノ元遺跡が位置する段丘の先端側は、比較的広い段丘面を有しているが、橋上遺跡が位置する段丘の根元側は両河川の浸食作用や開析谷により段丘面が狭く、ほぼ全域が橋上遺跡の範囲となっている。

### 第2節 歴史的環境(第1図)

当該遺跡が立地する段丘上を含め、周辺には多くの遺跡が分布している。

旧石器時代の調査は、高野原遺跡、永迫第2遺跡、高浜中原遺跡、小田元第2遺跡、野中第1遺跡などで実施されており、高野原遺跡では始良Tn下位層の調査が実施されている。

縄文時代は、草創期から晩期まで確認されている。草創期は野中第1遺跡で集石遺構とそれに伴う隆帯土器が検出されている。早期は調査事例が多く、橋上遺跡においても過去に4地点で調査が実施されている。前期は永迫第1遺跡、永迫第2遺跡で包含層の調査がなされ、中期は去川山下遺跡、久木野遺跡で、後期は橋山第1遺跡、城ヶ峰遺跡など、晩期は学頭遺跡において調査がなされている。

弥生時代は、学頭遺跡において断面V字形の大型の溝や竪穴住居が確認され、的野遺跡では後期から終末期段階の二段掘の土坑や溝状遺構が検出されている。

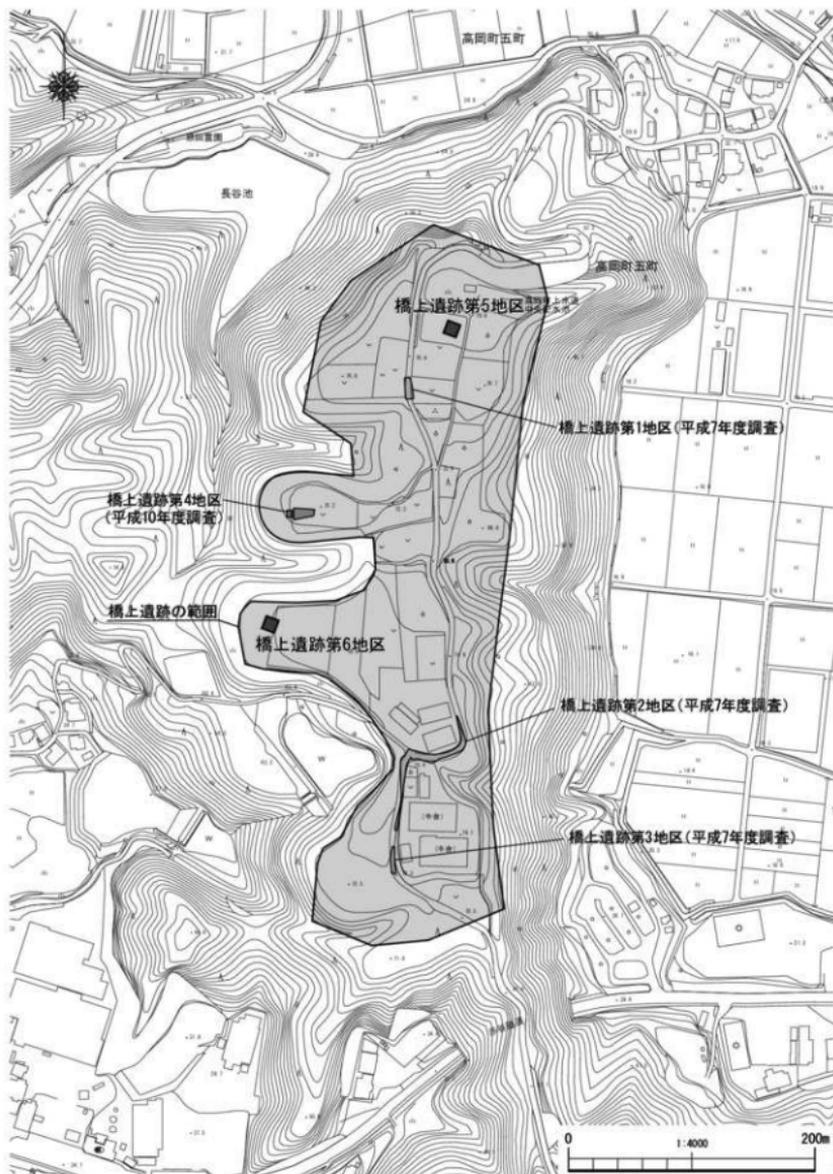
古墳時代になると、大淀川の沖積地に所在する微高地上に集落が展開する。高岡麓第5地点では中期に比定されている2軒の竪穴建物が、八見遺跡では7世紀代の竪穴建物12軒の調査がなされている。

古代は大淀川北岸の台地上に所在する蕨野遺跡において9世紀後半以降の土師器碗や皿等を焼成した土坑が6基以上検出された。また、三生江遺跡や野遺跡では越州窯の青磁碗や灰釉陶器、緑釉陶器が出土している。

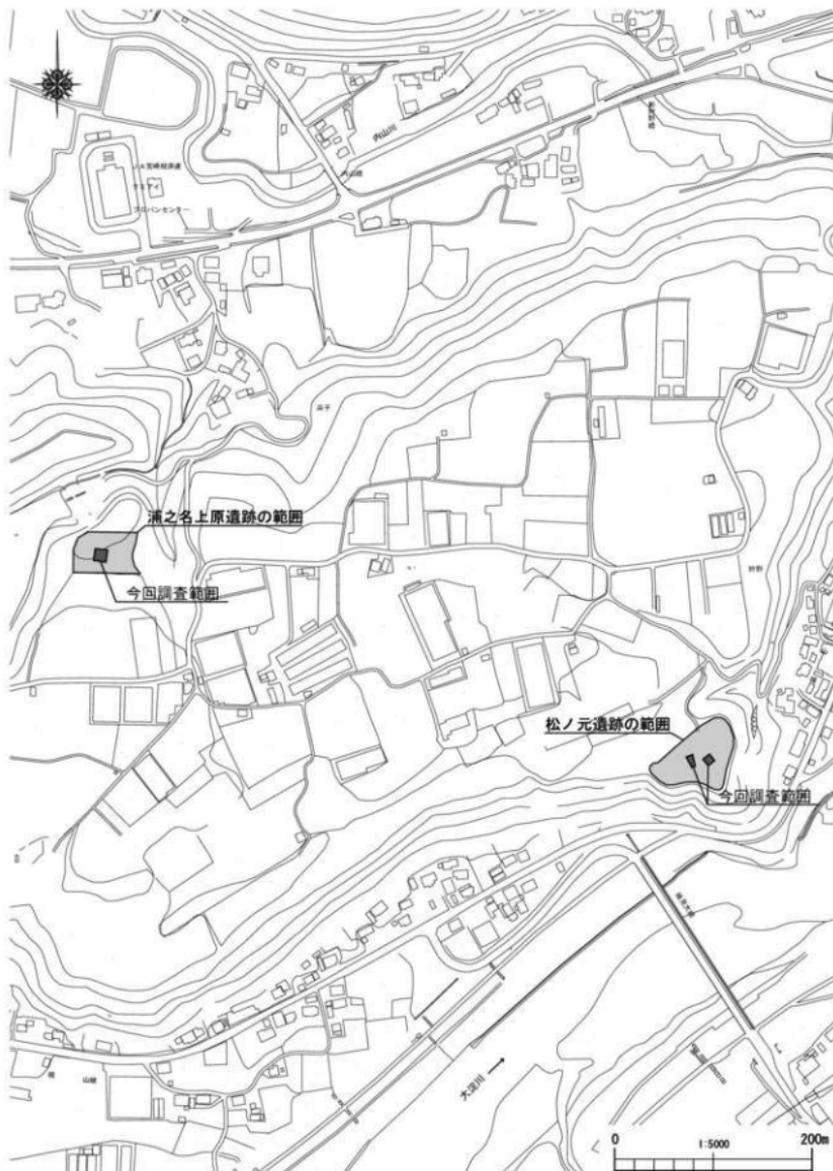
中世には、当該遺跡周辺は建久図田帳によると「島津庄穆佐院」と称されていた。南北朝期から中世末までその中心となったのが穆佐城であり、史跡整備に伴う調査が継続的に行われている。また、大淀川縁辺には天ヶ城跡、飯田城跡、楠見城跡などの山城が分布している。

近世になると、周辺地域の中心は、近世初頭に廃城となった天ヶ城の山裾に形成された麓に移動する。この麓が高岡麓遺跡である。高岡麓遺跡は地頭仮屋を中心に計画的な街路設計がなされており、現在までに確認調査も含め54地点にわたって調査が行われている。





第2図 橋上遺跡調査地周辺地形図(S=1/4000)



第3図 浦之名上原遺跡・松ノ元遺跡調査地周辺地形図(S=1/5000)

## 第Ⅱ章 調査に至る経緯

今回報告する発掘調査は宮崎市高岡町高浜に所在する宮崎ハイテク工業団地への追加電力供給のため整備されることとなった高圧鉄塔建設を原因とする。立替えを含む11基の鉄塔建設計画のうち、宮崎市高岡町浦之名、高岡町五町において2箇所が埋蔵文化財包蔵地に該当し、またその周辺の埋蔵文化財の可能性のある4箇所を含んだ6箇所を対象に平成29年7月5日から7月21日に試掘・確認調査を実施した。その結果、橋上遺跡の2箇所、高岡町浦之名字上原、字松ノ元の合計4地点で埋蔵文化財の所在が確認され、字上原については「浦之名上原遺跡」、字松ノ元については「松ノ元遺跡」として平成29年8月10日付で新規登録された。

調査結果を踏まえ、事業者より平成29年8月24日付で、各遺跡それぞれの埋蔵文化財発掘の届出が提出、平成29年9月5日付で発掘調査の実施依頼が提出され、同月13日に事業者と宮崎市との間で平成33年(令和3年)3月までの協定書を締結した。

発掘作業対象となった4箇所において、平成29年10月より発掘作業が開始された。平成29年10月23日から11月10日に橋上遺跡(第6地区)、平成29年11月27日から12月21日に橋上遺跡(第5地区)、平成29年10月23日から11月27日に浦之名上原遺跡、平成29年10月12日から12月25日に松ノ元遺跡で発掘作業を実施した。

## 第Ⅲ章 橋上遺跡の調査

### 第1節 第5地区の調査

#### 第1項 基本土層と調査区(各トレンチ)の状況(第4～7図)

鉄塔脚部の基礎部分である直径約2.8mの4箇所が調査対象であり、本調査区では4箇所の一辺約2.1mの正方形のトレンチが設定された。各トレンチで遺構や遺物の密集が調査区外に及ぶことが想定された箇所については開発区域の境界付近まで調査区を拡張した。

基本土層は第5図の通りで、本調査区ではアカホヤ火山灰層(2層)下位の黒褐色ローム(3層)とその下の暗褐色ローム(4層)が縄文時代早期の遺物包含層として調査の対象となった。

トレンチ1は攪乱が著しく、基本土層の3層・4層が残存していなかった。トレンチ2は大部分を3層中位まで削平を受けていたものの、桑ノ木津留産黒曜石製の石鏃・石鏃未製品・剥片などが多数出土した。土器については前平式土器・別府原式土器が出土している。トレンチ3は大部分を4層中位まで削平を受けており、遺物があまり出土しなかったが、南部に陥し穴状遺構(SC1)が1基検出された。トレンチ4も一部に攪乱を受けており3層～4層中位まで部分的に消失していたものの、トレンチ2と同じように前平式土器・別府原式土器と共に多数の桑ノ木津留産黒曜石製の石鏃・石鏃未製品・剥片などが出土している。また中央付近には床面に複数の掘りこみをもつ土坑(SC3)が1基検出された。

## 第2項 遺構について(第8図)

前述の通り、トレンチ3で陥し穴状遺構(SC1)1基、トレンチ4で土坑(SC3)1基が検出されている。以下に詳細を述べる。

SC1は基本土層4層中位にて検出された。西側が調査区外に及んでいるが、確認できた範囲では長軸1.85m+ $\alpha$ 、短軸0.97mの不整長方形プランを呈し、検出面から床面までの深さは2.11mを測る。検出面から深さ1.1mの北東部壁面にて幅0.3m、奥行0.08mの段が確認されており、これは本遺構の形成時に使用された足場の可能性がある。床面までに壁面には多くの稜線が確認され、遺構埋土に基本土層10層のシラスブロックの混入が多く見られたことから、遺構が埋没する過程で壁面の崩落が頻繁に起きたことが想定される。床面には2箇所径0.1m程度、深さ0.25m程度の先細りの穴が検出されており、逆茂木の痕跡と考えられる。遺構埋土には礫が多く混入しており、特に12層中にて人頭大の礫が出土している。

SC3は基本土層5層上面にて検出された。長軸1.63m、短軸0.54mの不整長楕円形プランを呈し、検出面から床面までの深さは0.12mを測る。両端部に掘りこみが検出され、東側は検出面から深さ0.68mを測り、西側は0.18mを測る。なお西側にはもう一基深さ0.37mの掘りこみが検出されている。遺構埋土からは別府原式土器の胴部片(1)、桑ノ木津留産黒曜石製の石鏃(2)、頁岩製の敲石(3)と共に礫が出土している。

## 第3項 遺物について(第9図)

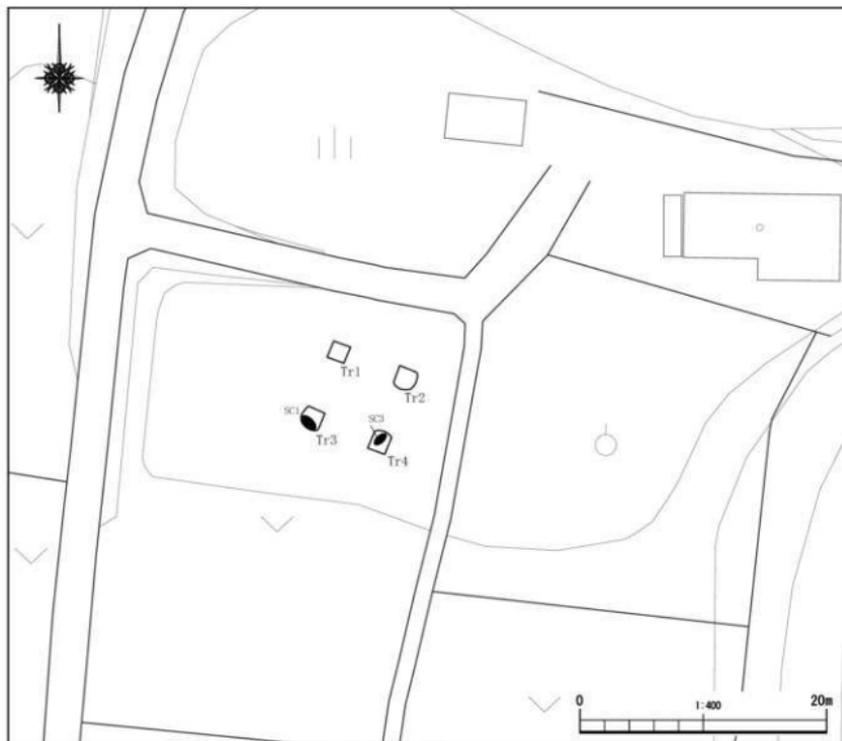
基本土層3層～4層にかけて土器・石器が出土している。以下に詳述する。

4～13は縄文土器である。4～7は前平式土器の口縁部で、器表面にやや粗めの貝殻条痕が見られ、4・5・7は端部に貝殻腹縁刺突文、6は押引文が施されている。8～12は別府原式土器である。8～11は胴部片で外面に浅い貝殻条痕、内面にはナデや丁寧なナデが見られている。12は底部付近の破片で胴部から底部にかけて窄まる器形を呈している。13は口縁端部の破片で貝殻腹縁押引文が確認される。

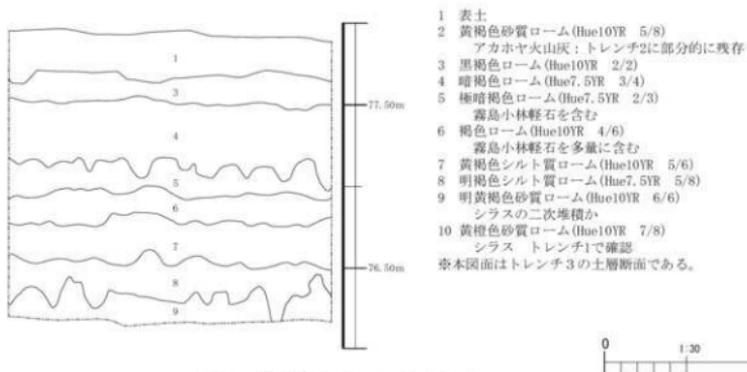
14～24は桑ノ木津留産黒曜石製の石器である。14は細石刃で打面部付近を欠損している。15～17は石鏃である。いずれも小型品で脚部の挟りがほとんど見られない。18～20は石鏃の未製品である。18は平面形が三角形に整っているものの、15～17と比べると一回り以上大きく、分厚いため未製品と判断した。19・20は周辺からの押圧剥離の痕跡が見られるが、平面形はまだ三角形になっておらず、分厚い状況である。21は二次加工の有る剝片である。下端部と主要剥離面の右側縁部に二次加工が顕著に見られる。22は縦長剝片である。23は寸詰まりの剝片である。24は石核である。自然面が確認され、打面調整を行わず、作業面を転回しながら不整形な剝片を作出していたものと考えられる。

## 第4項 第5地区の調査成果について

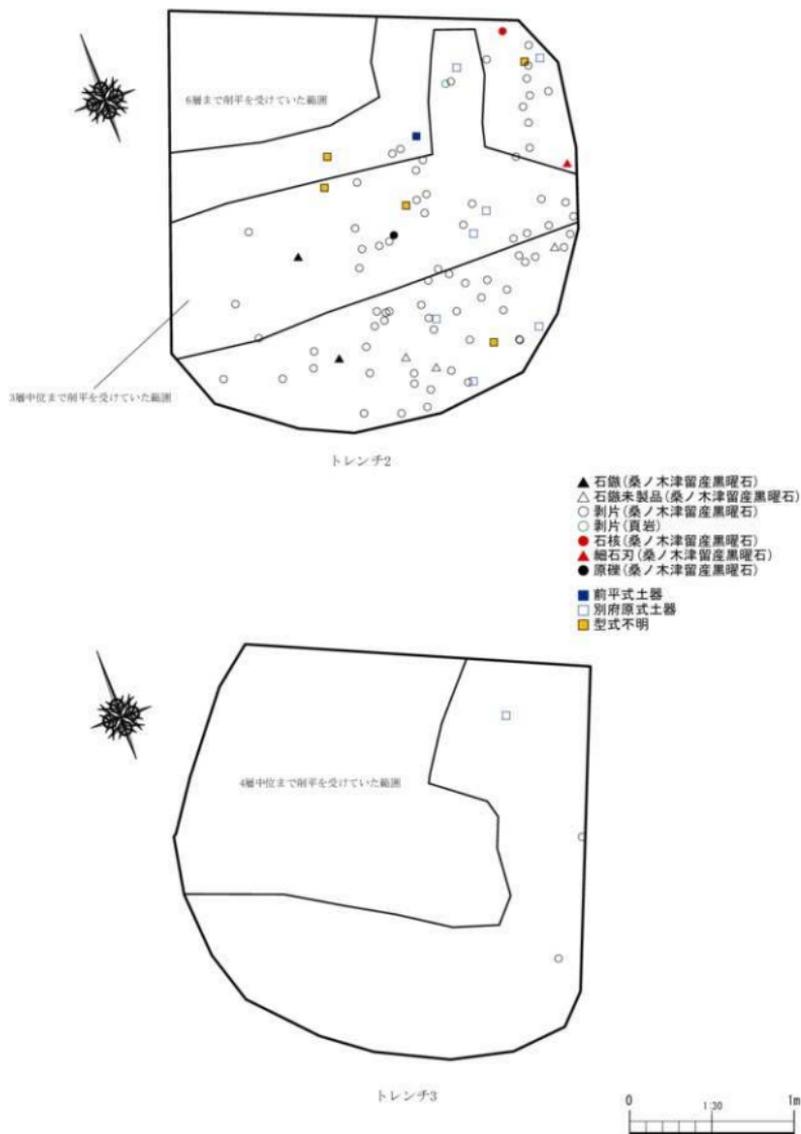
橋上遺跡第5地区の調査面積は狭小であったものの、陥し穴状遺構が検出されており、縄文時代早期以前の段階では狩猟の場であったことが想定された。また、出土した土器は前平式、別府原式と縄文早期前葉の資料でまとまっているため、これらと共に出土した多くの桑ノ木津留産黒曜石製の石器も同時期のものと考えられる。さらに以下のように石器を並べることで石



第4図 橋上遺跡第5地区調査区配置図 (S=1/400)



第5図 橋上遺跡第5地区基本土層図 (S=1/30)



第6図 橋上遺跡第5地区トレンチ2・3遺物分布図 (S=1/30)



第7図 橋上遺跡第5地区トレンチ4遺物分布図 (S=1/30)

鐵製作の作業工程を復元することができる。

- ①遺物番号24・22・23→石核から石鐵の素材剥片を作出する。
- ②遺物番号21→作出した剥片に二次加工を施す。
- ③遺物番号18～20→さらに二次加工をすすめ、全体の形状を三角形に整えていく。
- ④遺物番号15～17→石鐵の完成。なお16は製作途中で欠損した可能性がある。

以上のように本調査区周辺が早期前葉の石鐵製作の空間であったことが明らかとなった。宮崎平野部ではこれまで石鐵を製作した痕跡がいくつかの遺跡で確認されており、本調査区も当時の石器製作を復元する上で重要な遺跡であることが判明した。

## 第2節 第6地区の調査

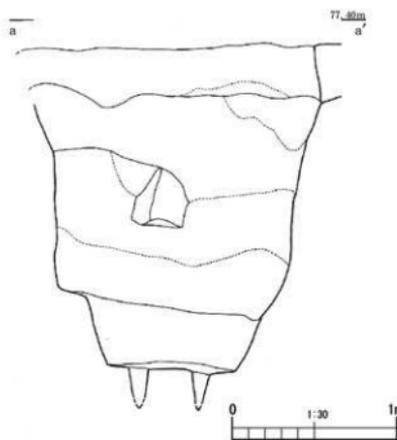
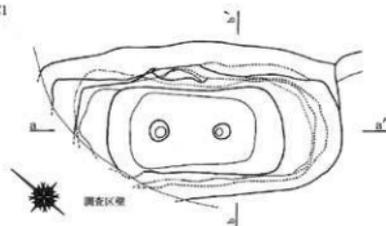
### 第1項 基本土層と調査区(各トレンチ)の状況(第10～13図)

鉄塔脚部の基礎部分である直径約2.6 mの4箇所が調査対象であり、本調査区では4箇所の一辺約1.9mの方形のトレンチが設定された。なお、トレンチ1では北側に集石遺構が検出されたため、開発区域の境界付近まで調査区を拡張した。

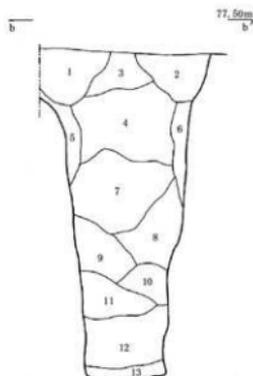
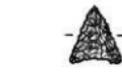
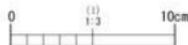
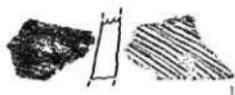
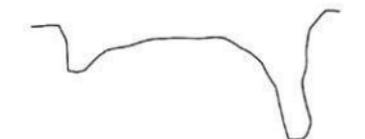
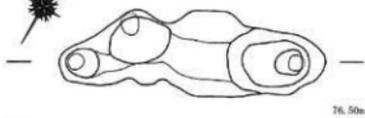
基本土層については第11図の通りで、本調査区ではアカホヤ火山灰層(2層)下位の褐色ローム(3層)とその下の褐色シルト質ローム(4層)が縄文時代早期の遺物包含層として調査の対象となった。

トレンチ1では前述の通り、集石遺構が1基検出され、前平式土器や平椀式土器、敲石などが出土している。トレンチ2は型式分類が不可能な土器の小片ばかりが出土した。トレンチ3では平椀式土器が目立つと共に姫島産黒曜石製の剥片・破片が多く出土している。ここでは縄文早

SC1



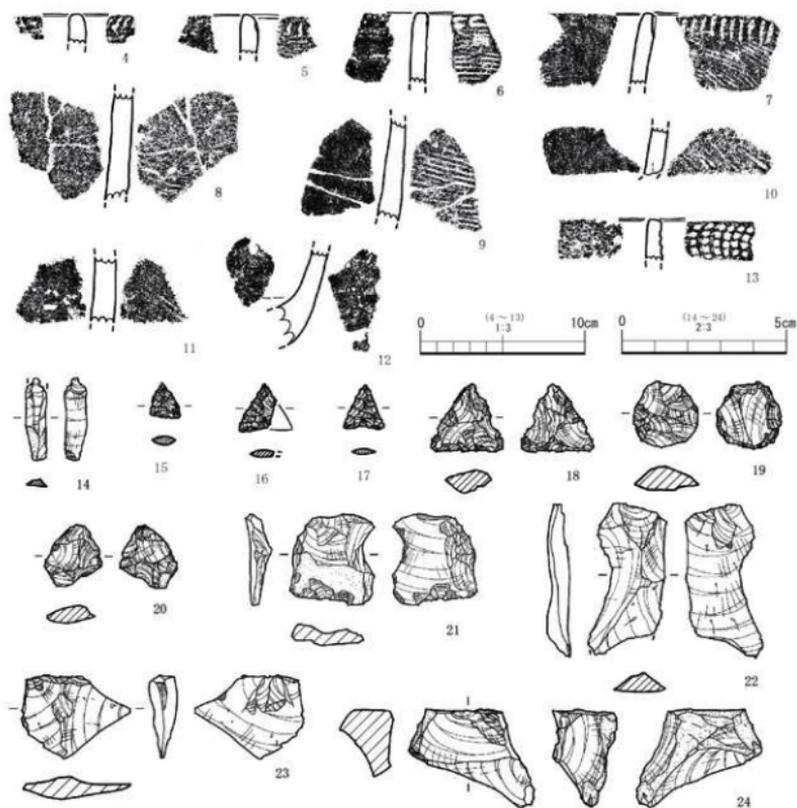
SC3



- 1 極暗褐色ローム層 (Hue7.5YR2/3)  
…基本土層 4層を含む。
- 2 黒褐色ローム層 (Hue7.5YR3/2)  
…霧島小林軽石の粒を含む。
- 3 黒褐色ローム層 (Hue10YR3/2)  
…基本土層 4層を含む。
- 4 黒褐色ローム層 (Hue10YR2/3)  
…霧島小林軽石の粒を含む。
- 5 褐色ローム層 (Hue7.5YR4/4)  
…霧島小林軽石の粒を少量含む。
- 6 褐色砂質ローム層 (Hue7.5YR4/6)  
…霧島小林軽石の粒を少量含む。
- 7 暗褐色ローム層 (Hue10YR3/3)  
…霧島小林軽石の粒を少量含む。
- 8 褐色ローム層 (Hue10YR4/6)  
…霧島小林軽石の粒を少量含む。
- 9 黄褐色シルト質ローム層 (Hue10YR5/8)  
…霧島小林軽石の粒を少量含む。
- 10 明黄褐色砂質ローム層 (Hue10YR6/8)  
…シラスブロックを含む。
- 11 褐色ローム層 (Hue7.5YR4/4)  
…シラスブロックを含む。
- 12 黄褐色シルト質ローム層 (Hue10YR5/8)  
…シラスのブロック、大ぶりの礫を含む。
- 13 灰黄褐色砂質ローム層 (Hue10YR4/2)  
…シラスのブロックを少量含む。



第8図 橋上遺跡第5地区縄文早期遺構 (S=1/30) 及び出土遺物実測図 (S=1/3・2/3・1/2)



第9図 橋上遺跡第5地区3層・4層出土遺物実測図 (S=1/3・2/3)

期の遺物包含層の調査終了後に旧石器時代の文化層を確認するために一部をさらに掘削した。その結果、霧島小林軽石層下位の9層から旧石器時代の使用痕のある剥片が出土した。なお、トレンチ4では遺物はあまり出土しなかった。

## 第2項 遺構について(第14図)

前述の通り、トレンチ1から集石遺構(S11)が1基検出されている。以下に詳細を述べる。

S11は4層下位で礫の密集を確認したことで検出された。検出時にすでに掘りこみの上部を掘削してしまっており、さらに北東部が調査区外に及ぶため、その全容が把握できていない。確認できた範囲では平面が0.66m × 0.6mで、深さ0.1mの掘りこみを有しており、礫の総数が155



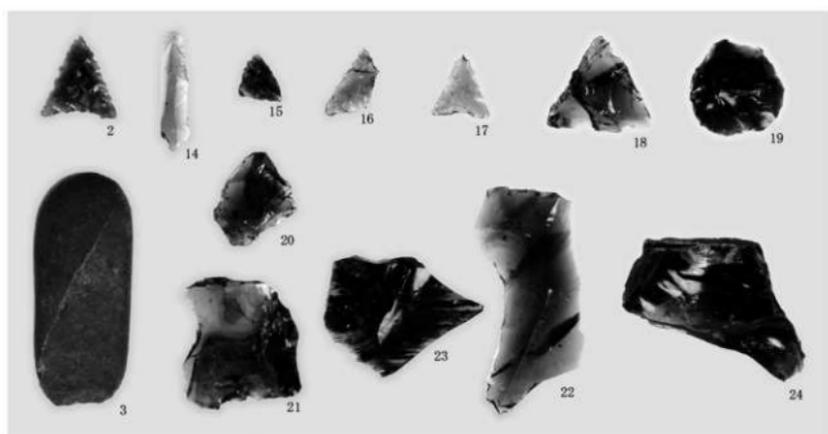
SC1



SC3



トレンチ 4 遺物出土状況



点で重量が21kgを測る。礫の間から前平式土器の底部片(25)が出土している。

### 第3項 遺物について(第15図)

基本土層3層～4層にかけて土器・石器が、9層で石器が出土している。以下に詳述する。

26は9層から出土した使用痕のある剥片である。背面左側縁に微細剝離が確認される。

27～37は縄文土器である。27・28は前平式土器で器面に条痕が見られる。29は無文土器である。30～37は平椀式である。30・36は無紋だが器形や刻目突帯から平椀式と分類できる。その他のものは沈線文・列点文・摺糸文と多くの文様が確認される。

38・39は打製石鏃である。38はいわゆる鎌形鏃で、39は近年、早期末葉に多く見られる傾向が指摘されている鋸歯縁状の縁辺が特徴的な石鏃である。40は敲石である。41は尾鈴山酸性岩製の磨石である。

### 第4項 第6地区の調査成果について

橋上遺跡第6地区の調査面積は狭小であったものの、集石遺構が検出され、さらに今まで発見されていなかった旧石器時代の遺物包含層が確認された。またトレンチ3においては、縄文早期後半の土器と姫島産黒曜石製の石器がまとまって出土するという特徴的な遺物の出土状況が見られるなど、注目される成果を得ることができた。

### 第3節 橋上遺跡の調査成果について

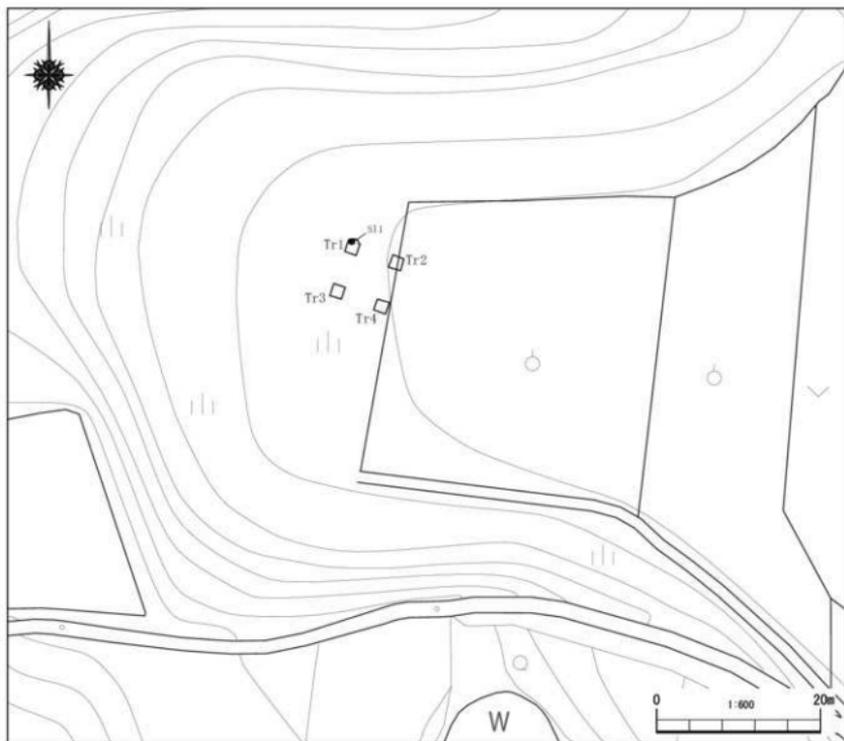
橋上遺跡は平成7年度に第1～3地区(1820㎡)が、平成10年度に第4地区(200㎡)の調査が行われている(第2図参照)。今回調査された第5・6地区と同じように縄文時代早期の文化層が検出されており、本節ではこれらの調査成果に付いて列挙し、簡単にまとめる。

第1地区は第5地区の南西側に位置する。第Ⅲ層(アカホヤ火山灰層)の下の青灰色砂性土下位の第Ⅴ層(淡褐色弱砂性土)から集石遺構1基が検出されている。出土遺物は別府原式、吉田式と共に黒曜石製の石鏃、スクレイパー、小型の石斧などが出土している。

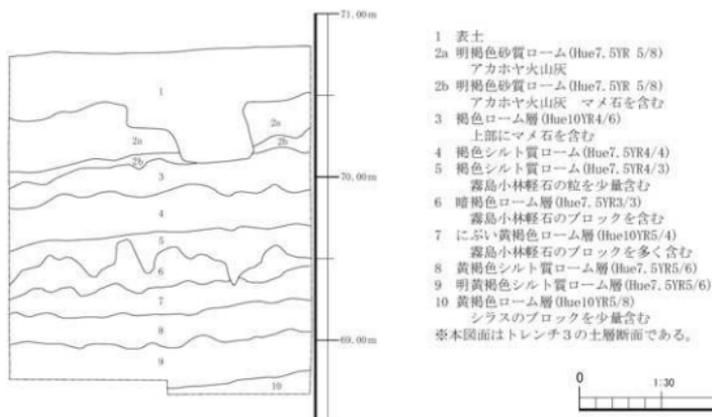
第2・3地区は第6地区の南東側に位置する。第Ⅴ層にて集石遺構2基、土坑1基が検出されている。出土遺物は前平式、別府原式、吉田式、押型文、変形摺糸文の土器と共に黒曜石製の石鏃、スクレイパー、敲石などが出土している。

第4地区は第6地区の北側に位置する。第2層(アカホヤ火山灰層)下位の第3層(牛のすねローム層)と第4層(淡黄褐色粘性土層)から集石遺構が5基検出されている。出土遺物としては別府原式、下剥峯式、押型文、塞ノ神式の土器と共に黒曜石・チャート製の石鏃や砂岩・黒曜石製の石核などが出土している。

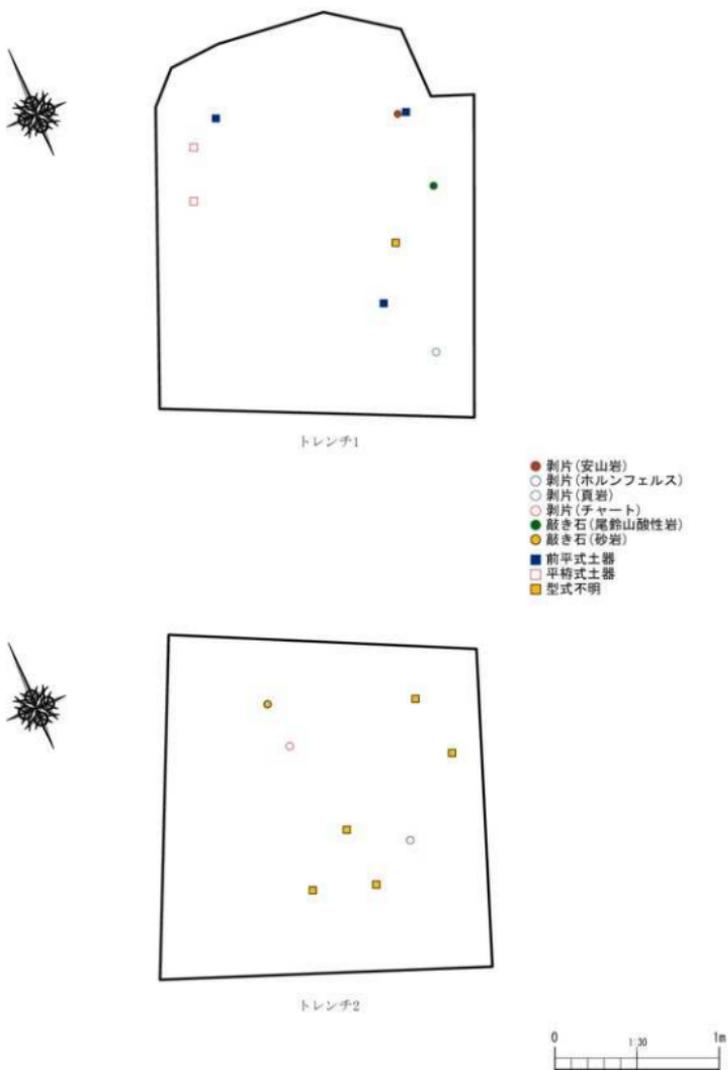
第1～6地区までの調査で最も多く出土している土器は別府原式であり、そのほかに吉田式や前平式などの縄文早期前葉の資料が多い。また石鏃の使用石材としては桑ノ木津留産黒曜石が目立つ傾向にあり、これが早期前葉によく利用されたことが宮崎市清武町船引地区遺跡群や田野町ズクノ山第2遺跡E区でも確認されている。また本遺跡の西側に設定された第4・6地区では早期後葉の塞ノ神式や平椀式が出土しており、本遺跡の中でも区域ごとに中心となる時期が異なる可能性が指摘される。



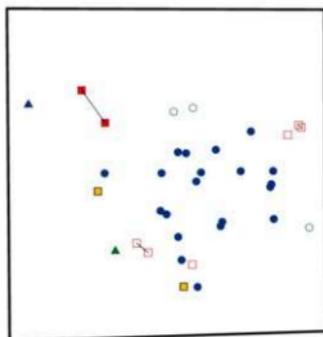
第10図 橋上遺跡第6地区調査区配置図 (S=1/600)



第11図 橋上遺跡第6地区基本土層図 (S=1/30)

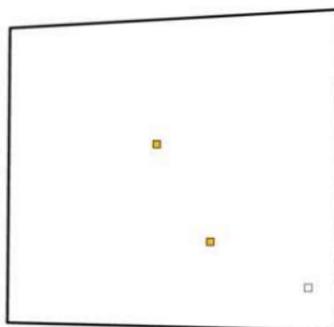


第12図 橋上遺跡第6地区トレンチ1・2遺物分布図 (S=1/30)

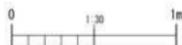


トレンチ3

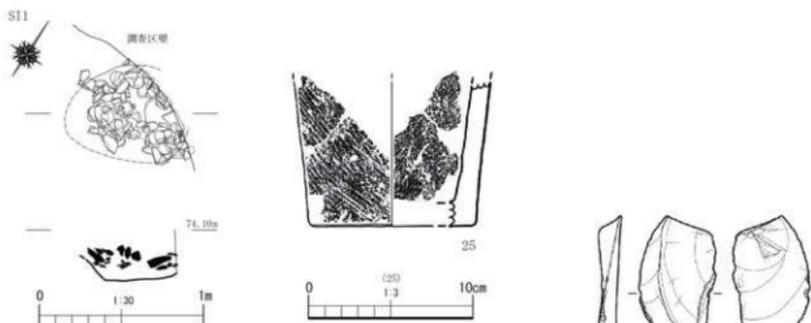
- ▲ 石鏃(姫島産黒曜石)
- ▲ 石鏃(頁岩)
- 剥片・砕片(姫島産黒曜石)
- 剥片(頁岩)
- 平柄式土器
- 塞ノ柄式土器
- 無紋土器
- 型式不明



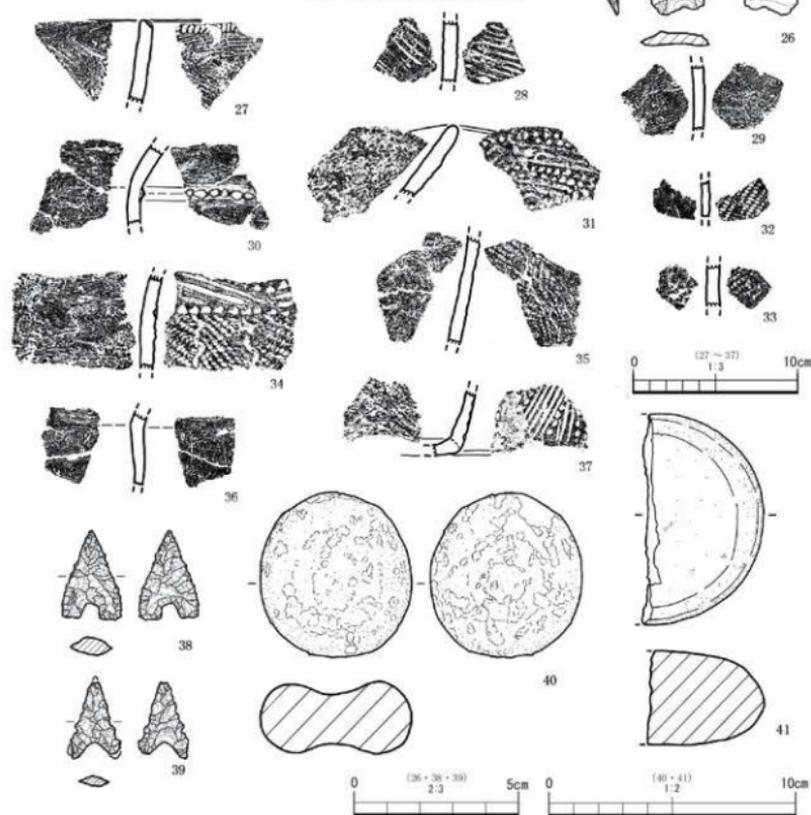
トレンチ4



第13図 橋上遺跡第6地区トレンチ3・4遺物分布図 (S=1/30)



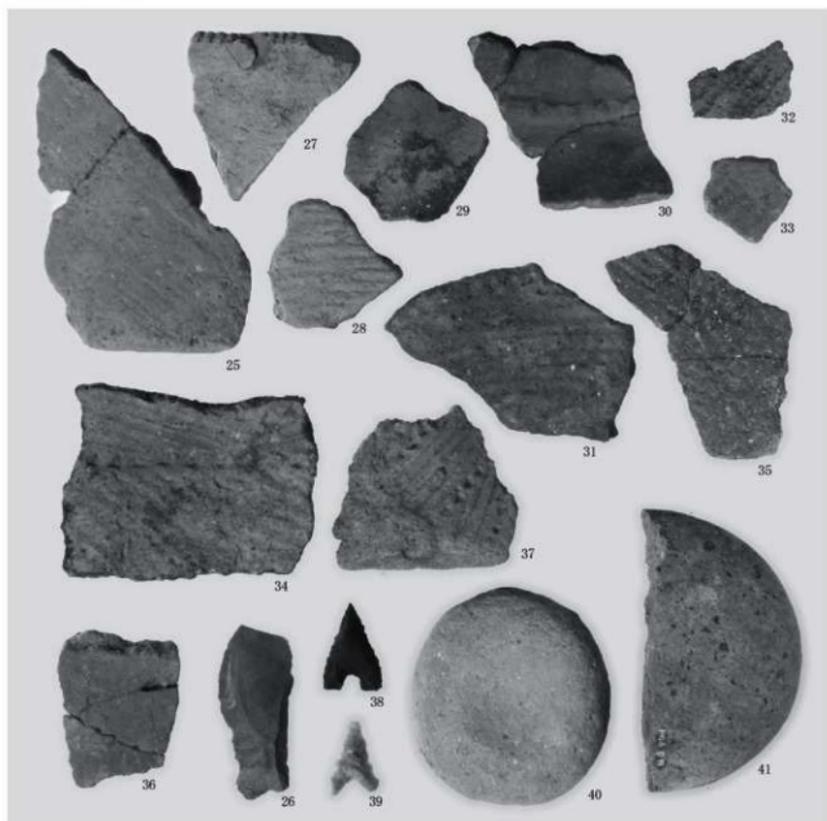
第14図 橋上遺跡第6地区縄文早期集石遺構 (S=1/30)  
及び出土遺物実測図 (S=1/3)



第15図 橋上遺跡第6地区3層・4層・9層出土遺物実測図 (S=1/3・2/3・1/2)



S11



## 第IV章 浦之名上原遺跡の調査

### 第1節 調査の概要

#### 第1項 調査の経過(第3図、第16図)

調査対象地は段丘面上の北端に立地するが、東西に迫が入り込んでいることから、岬状に突出する地形となっている。調査以前は畑であったが、耕作は行われておらず藪になっていた。

調査範囲は、鉄塔脚部の基礎によって埋蔵文化財が影響を受ける直径約3.4m×4箇所に、内寸に合わせた一辺約2.4mの正方形の調査区を4箇所設定し調査を行った。ただし、調査を進める過程で遺構が集中する箇所に関しては、前述の直径約3.4mの範囲内において調査区を拡張したため、最終的に調査面積は24.59㎡となった。作業は掘削範囲が狭小であるため、表土剥ぎから埋め戻しまで全て人力により行った。調査対象は、試掘調査の結果から遺構の存在が想定されたアカホヤ火山灰層上面において遺構検出を行ったが、遺構が検出されなかったためアカホヤ火山灰を除去し、結果としてアカホヤ火山灰層より下層のみを調査対象とした。

#### 第2項 基本層序(第17図)

現地形は南西から北東へ向かって緩やかに下降傾斜しているが、表土以下の堆積もそれと同様に南西から北東に向かい下降傾斜している。西側に位置するトレンチA、Bは斜面落ち際の平坦面に位置することから水平に近い安定した堆積で、4～6層が縄文時代早期遺物包含層に該当する。一方、東側に位置するトレンチC、Dは斜面地に位置することから土層堆積は安定的ではなく、小林降下軽石混ロームやシラスが混ざる6b層から縄文時代早期の土器が出土している。トレンチA、Bで確認された7a、7b、7c層は小林降下軽石混ローム層、9層は周辺地域の調査結果からシラス直上層と想定される。トレンチC、Dでは前述の6b層下位においてシラス層(11層)が検出されている。

### 第2節 調査の成果

#### 第1項 包含層の調査(第18図、第19図)

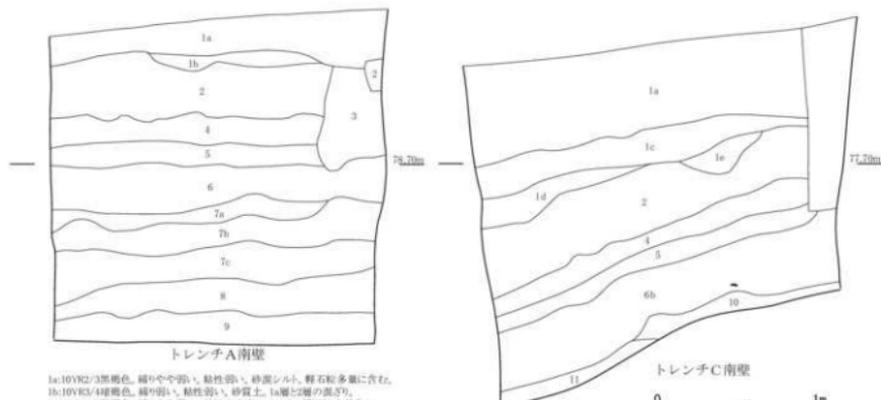
狭小な調査範囲のため遺物総数は少量ではあるが、後述するように遺構が集中するトレンチBに偏った出土状況を示している。また、礫の分布もトレンチBに偏っている。出土遺物の時期は幅があるものの早期前葉が主体になると思われる。旧石器時代の調査は、トレンチA、Bでは安全面からシラスの上位層である暗褐色の硬質ロームブロックを含む褐色ローム層まで、トレンチC、Dではシラスまで掘下げを行ったが、遺物や焼石は出土しなかった。

#### 第2項 遺構の調査(第20図、第21図)

検出された遺構は、集石遺構4基、陥し穴状遺構1基、土坑3基で、層位や出土遺物から全て縄文時代早期に帰属すると考えられる。限定的な調査範囲であったが、陥し穴状遺構以外の遺構はトレンチBに集中しており、分布の中心は平坦な地形である調査対象地西側になる。



第16図 浦之名上原遺跡調査区配置図 (S=1/600)



1a:10YR2/3黒褐色、縞りややぶい、粘性弱い、砂質シルト、軽石粒多量に含む。

1b:10YR3/4暗褐色、縞り弱い、粘性弱い、砂質土。1a層と2層の混ざり。

1c:10YR2/2黒褐色、縞りややぶい、粘性やや有り、シルト、軽石粒少量含む。

1d:10YR2/1黒色、縞りややぶい、粘性やや有り、シルト、黒ボク土層。

1e:10YR2/3黒褐色、縞りややぶい、粘性やや有り、シルト、14層とアカホヤ火山灰層の混ざり、縦根痕。

2:7.5YR5.8明褐色、縞り有り、粘性無し、砂質土。アカホヤ火山灰層、下部に互石。

3:土層傾斜。2-3層が入り混じる。

4:10YR2/1黒色、縞り強い、粘性強い、シルト、ブロック状に散れる、牛の肥こみ層、縄文時代早期遺物包含層。

5:10YR3/3暗褐色、縞り有り、粘性やや弱い、砂質シルト、暗褐色硬質ロームブロック含む、縄文時代早期遺物包含層。

6:10YR4/4褐色、縞りややぶい、粘性有り、ローム、縄文時代早期遺物包含層。

6b:10YR4.6褐色、縞り有り、粘性強い、砂質シルト、6層に小林降下軽石混硬質ロームブロック、シラスが混ざる。斜面のため複数の土質が混在する。土器出土。

7a:7.5YR4/4褐色、縞りややぶい、粘性やや有り、シルト、小林降下軽石混硬質ロームブロック含む。

7b:10YR4/3に似る異褐色、縞り強い、粘性強い、砂質シルト、小林降下軽石混硬質ローム土層。

7c:10YR4/4褐色、縞り強い、粘性やや弱い、砂質シルト、7b層より色が明るく小林降下軽石少量含む。

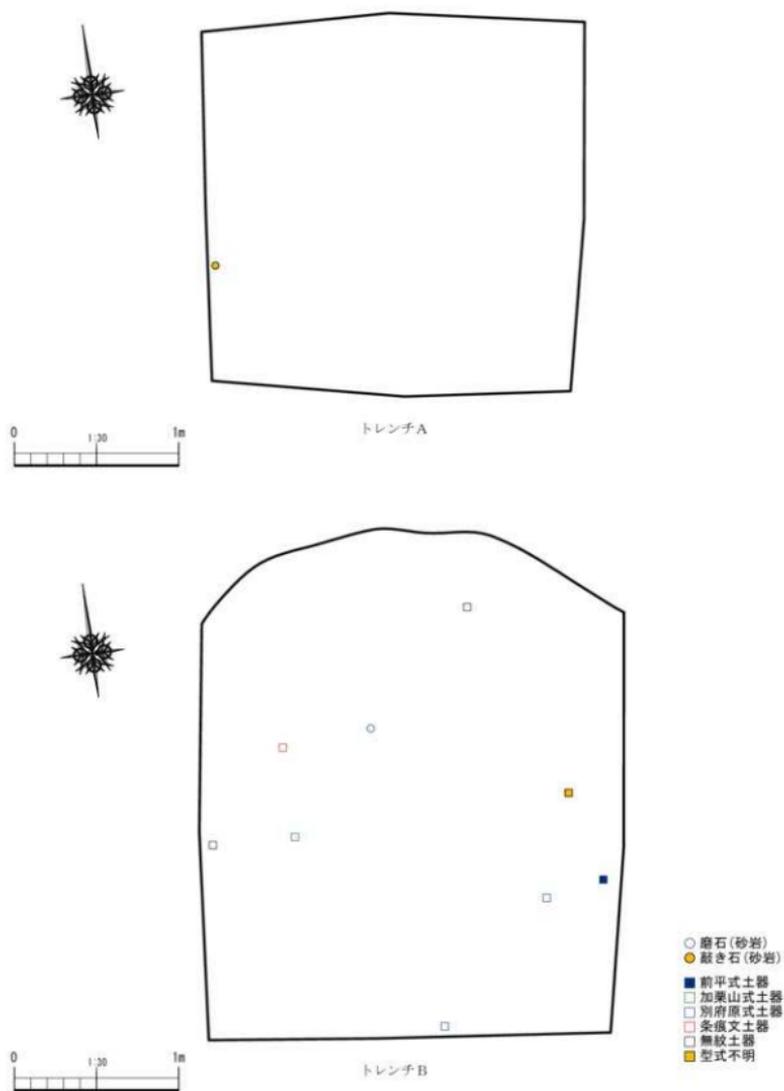
8:10YR4.6褐色、縞り強い、粘性やや有り、砂質シルト、小林降下軽石を含む硬質ロームブロック混ざる。

9:7.5YR4/1褐色、縞り有り、粘性やや有り、ローム、暗褐色硬質ロームブロック含む。

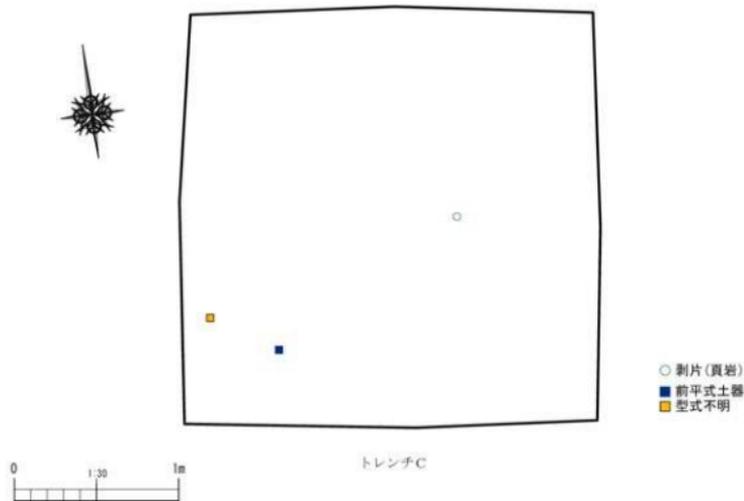
10:10YR5.8黄褐色、縞り有り、粘性無し、砂質土、シラスに同褐色硬質ロームブロック混ざる。

11:10YR5.8黄褐色、縞り有り、粘性無し、砂質土、シラス層。

第17図 浦之名上原遺跡基本土層図 (S=1/30)



第18図 浦之名上原遺跡 (トレンチA・トレンチB) 遺物分布図 (S=1/30)



第19図 浦之名上原遺跡トレンチC遺物分布図(S=1/30)

**集石遺構1** トレンチBの北西側で5層中位で検出された。掘り込みは正円に近く直径1.1m、検出面からの深さ0.3mを測り、断面はボウル状の形状を呈する。切り合い関係から集石遺構4に後出する。礫は円礫や割れた円礫が主で被熱しているものが多数を占める。掘り込みの底に配石はなく、底面から5cm程度浮いた位置から礫が充填されている。底面中央付近に堆積する3層は多量の炭化物を含む。遺物は出土しなかった。

**集石遺構2** トレンチBの南側で5層上面において検出された。掘り込みは正円に近く直径0.5m、検出面からの深さは0.18mと小規模である。切り合い関係から土坑7に後出する。礫は割れた円礫が主で被熱をしているものが多いが、礫の密度は疎らであり、埋土も炭化物を少量含む程度である。遺物は出土しなかった。

**集石遺構3** トレンチBの北東壁際で5層中位において検出された。遺構の大半は調査区外であるが、集石遺構2に類似する規模、形態になるものと思われる。調査区内での最大値は長軸0.48m、検出面からの深さ0.1mを測る。礫は割れた円礫が主で被熱しているものが多い。遺物は出土しなかった。

**集石遺構4** トレンチBの北西側で5層中位において検出された。北側は調査区外に位置し、南側は集石遺構1に切られる。礫は割れた円礫が主で被熱をしているものが多い。掘り込みの規模から見ると礫は疎らである。調査区内での最大値は長軸1.1m、検出面からの深さ0.18mを測り、集石遺構1に類似する形態になると思われる。遺物は出土しなかった。

**土坑5(陥し穴状遺構)** トレンチDの東側で検出された陥し穴状遺構である。遺構の一部は調査区外に広がる。10層上面で検出したが、調査区東壁を観察した結果、明確ではないものの概ね6b層中位から掘り込まれていることが明らかになった。平面形は楕円形で、長軸1.38

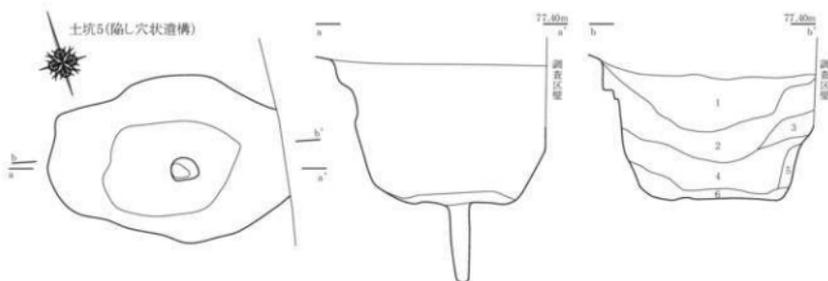


第20図 浦之名上原遺跡縄文時代遺構実測図①(S=1/30)

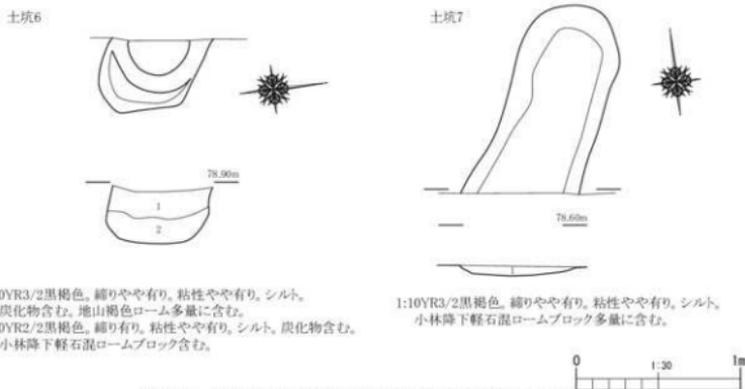
m以上、短軸0.98m、検出面からの深さ0.8mを測るが、本来は深さ1.1m程度であったと想定される。床面のほぼ中央から逆茂木痕が1ヶ所検出された。埋土は小林降下軽石を含む硬質ロームブロックが主体である。遺物は出土しなかった。

**土坑6** トレンチBの西側で検出された土坑である。遺構の一部は調査区外に広がる。検出面は5層中位である。平面形は歪な楕円形になると思われ長軸0.6m以上、短軸0.52m、断面形はU字形を呈し検出面からの深さ0.3mを測る。埋土は黒褐色を呈し炭化物を含むが焼土は含まない。遺物は(43)が出土した。

**土坑7** トレンチBの南側で検出された土坑である。遺構の一部は調査区外に広がり、形状



- 1:7.5YR4/4褐色。締りやや有り、粘性やや強い、砂混シルト。小林軽石混硬質ロームブロック径10cm以下多量に含む。  
 2:7.5YR4/4褐色。締り有り、粘性やや強い、砂混シルト。小林軽石混硬質ロームブロック径10cm以下少量含む。  
 3:7.5YR4/3褐色。締り有り、粘性やや弱い、砂混シルト。シラス混ざる。小林軽石混硬質ロームブロック径10cm以下少量含む。  
 4:7.5YR3/3暗褐色。締り有り、粘性やや弱い、砂混シルト。小林軽石混硬質ロームブロック径3cm以下、シラス少量含む。  
 5:10YR5/3こぶい黄褐色。締りやや有り、粘性無。砂質土。シラス主体土。遺構壁崩落土。  
 6:10YR4/3こぶい黄褐色。締り有り、粘性弱い、砂質土。シラス主体土。シラスブロック径3cm以下少量含む。



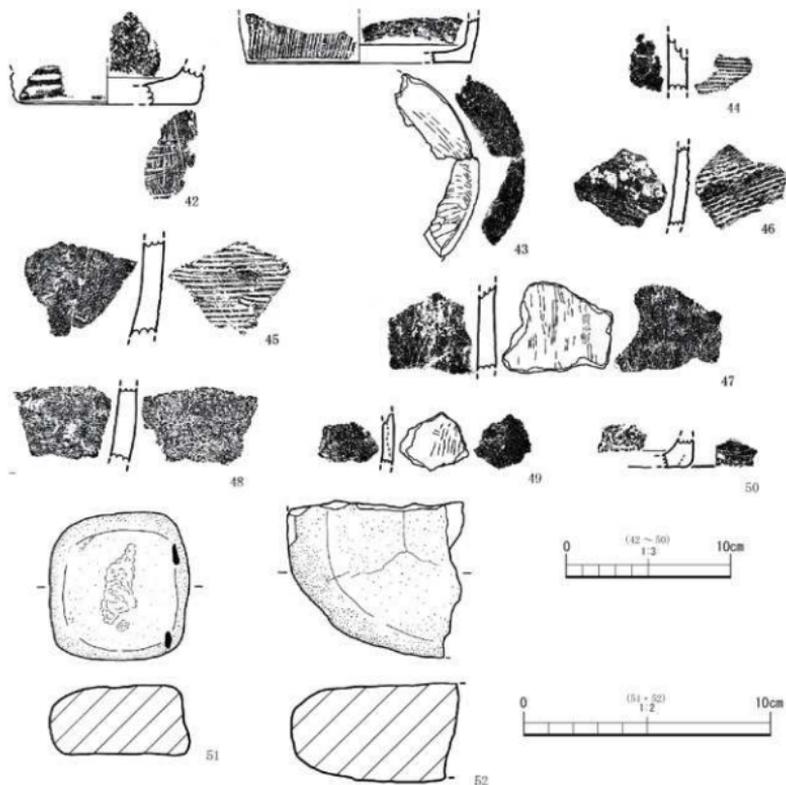
- 1:10YR3/2黒褐色。締りやや有り、粘性やや有り、シルト。  
炭化物含む。地山褐色ローム多量に含む。  
 2:10YR2/2黒褐色。締り有り、粘性やや有り、シルト。炭化物含む。  
小林降下軽石混ロームブロック含む。
- 1:10YR3/2黒褐色。締りやや有り、粘性やや有り、シルト。  
小林降下軽石混ロームブロック多量に含む。

第21図 浦之名上原遺跡縄文時代遺構実測図②(S=1/30)

から溝状遺構となる可能性もある。6層中位で検出したが、調査区南壁を観察した結果、6層上位から掘り込まれていることが明らかになった。平面形は長楕円形を呈すると思われ、長軸1.26m以上、短軸0.62m、断面形はU字形を呈し、検出面からの深さは0.06mであるが、前述の理由から本来は0.3mであったと考えられる。埋土は小林降下軽石を含む硬質ロームブロックを多量に含むが、当該遺構の床面は同層まで届いていない。遺物は出土しなかった。

### 第3項 出土遺物(第22図)

前述のとおり狭小な調査範囲であったため、出土遺物も少量である。42から50は縄文土器の深鉢で、50のみがトレンチC出土、その他はトレンチB出土である。42、44から49は5層より、43は土坑6と4層より、50は6層より出土した。42は底部付近の破片で外面は横位の太い貝殻条痕文が施されており、底部外面にも貝殻条痕文を施されている。43は底部付近の破片で外面は縦位の貝殻条痕文が施され、底部外面はミガキが施されている。器壁は薄手で焼成も良好



第 22 図 浦之名上原遺跡縄文時代出土遺物実測図 (S=1/3・1/2)

である。44、45 は胴部片で、外面は横位から斜位の貝殻条痕文が施されている。46 は胴部片で外面は連結された楕円押型文が施されている。47 から 49 も胴部片で、47、49 は外面にミガキが施されている。49 は器壁が薄手である。50 は底部付近の破片で、細片のため判然としないが外面に沈線文が施されている。51 は砂岩製の敲石でトレンチ A 出土である。52 は砂岩製の磨石で 4 分の 3 程度を欠損する。トレンチ B から出土した。

### 第 3 節 まとめ

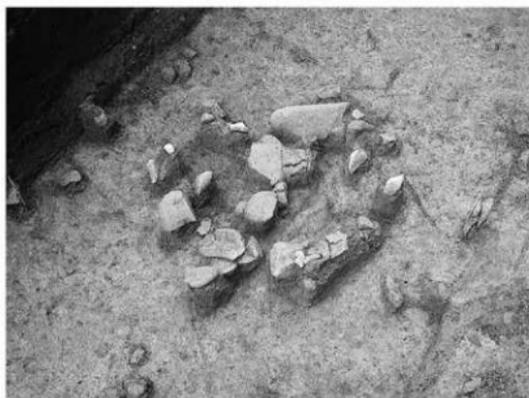
今回の調査は調査面積が僅か 24.59 m<sup>2</sup>であったため、遺跡の詳細を明らかにすることはできていない。トレンチ A に隣接する試掘調査のトレンチでは、周溝状遺構と想定される遺構がアカホヤ火山灰層上で遺構が確認されていることから、調査対象地周辺には当該時期の遺構が存在すると思われる。また、アカホヤ火山灰層下の縄文時代早期段階の遺構、遺物に関しても、その存在は確認されたが、点的な把握に留まっていることから、遺跡の詳細を明らかにするためには今後の調査成果の蓄積を待ちたい。



集石遺構 1 検出状況



集石遺構 1 半截状況



集石遺構 2 検出状況



集石遺構 3 検出状況（南西から）



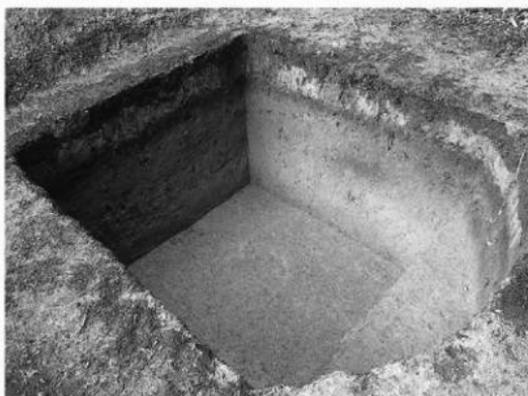
集石遺構 1 完掘及び  
集石遺構 4 検出状況（南西から）



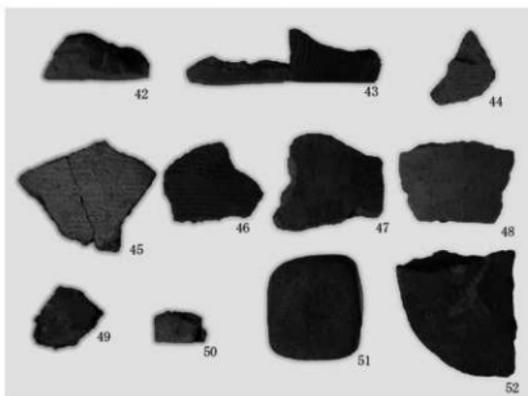
土坑 5 完掘状況（南西から）



土坑 6 完掘状況（東から）



トレンチ B 調査終了時（北東から）



浦之名上原遺跡出土遺物

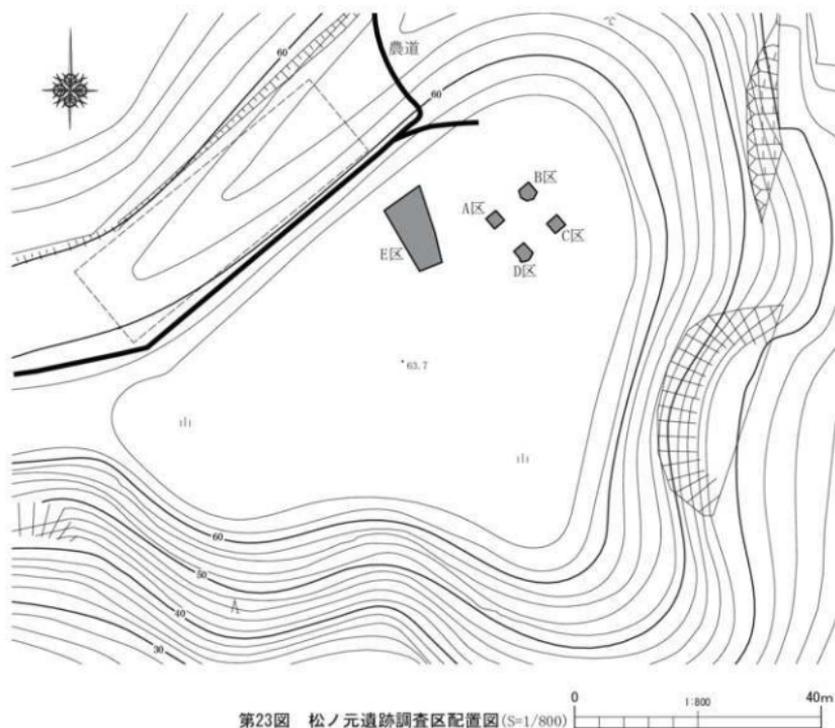
## 第V章 松ノ元遺跡の調査

### 第1節 遺跡周辺の環境と調査の概要

松ノ元遺跡の発掘作業は平成29年10月12日から平成29年12月25日の期間実施した。高圧鉄塔の建設予定地となった当該地は、当初、周知の埋蔵文化財包蔵地ではなかったものの、丘陵上で平坦面が広がっており埋蔵文化財の存在の可能性が考えられたため、平成29年7月5日から7月21日に事前の試掘調査を実施した。調査の結果、縄文時代早期と旧石器時代に相当する埋蔵文化財が確認され、「松ノ元遺跡」として平成29年8月10日付で新規登録された。

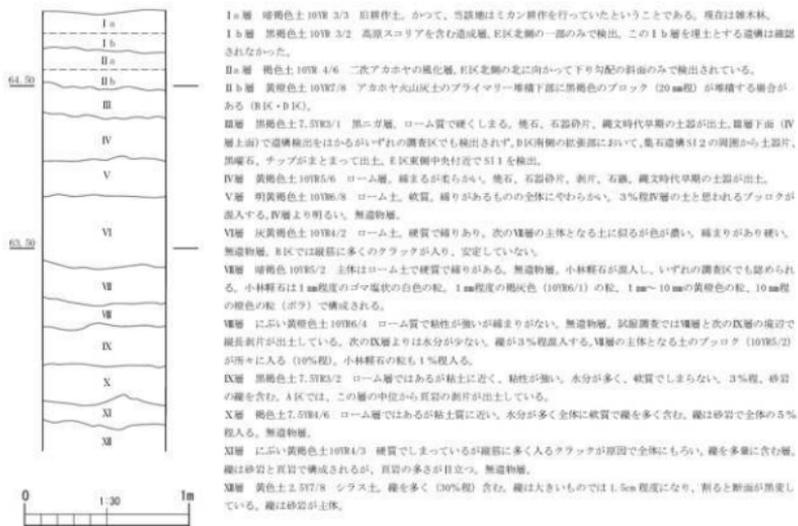
遺跡は伊勢ノ原台地の南東部の先端に位置し、周囲は西側のみが伊勢ノ原台地本体と繋がった状態で、北側は伊勢ノ原台地の開析谷に面し、東側と南側には台地の麓を流れる大淀川に向かって急崖となっている。遺跡周辺の標高は64mで、大淀川が流れる麓とは約40mの比高差がある。

調査地はかつてミカン畑として利用され、その頃に造成したものであろうか、調査対象地全体が一様に平坦地となっていた。高圧鉄塔の基礎部分4箇所と鉄塔建設時の工事用道路が調査



対象であった。調査にあたっては鉄塔基礎部の北西側から時計回りにA区、B区、C区、D区、工用道路の部分でE区と設定した。試掘調査結果で得られた縄文時代早期と旧石器時代の文化層を調査の対象とし、C区を除く調査区で縄文時代早期の文化層が確認され、A区のみで旧石器時代の文化層が確認された。なおC区では出土遺物は多数認められたものの、調査区全体が風倒木痕により基本層序V層まで攪乱されていたため、縄文時代早期の調査対象からは除外した。調査面積はA区が4.7㎡、B区が5.7㎡、C区が4.9㎡、D区が6.1㎡、E区が68.0㎡、合計で89.4㎡である。

縄文時代早期の調査はアカホヤ火山灰層（基本層序II b層。鬼舟島起源、約7300年前降灰）下のIII層黒褐色土及びIV層黄褐色土で実施した。C区を除きIII層、IV層は合計で厚さ40～45 cm堆積しており、IV層上面は標高63.4～63.7 m付近で検出されたが、E区では南から北側の谷部に向かって下り勾配の堆積が認められ、北に向かうに従い勾配がきつくなる。各調査区のIII、IV層からは吉田式、前平式、別府原式、下剥峰式、桑ノ丸式、押型文、塞ノ神式土器の縄文時代早期全般に渡る土器群に加え、チャート製、黒曜石製の石鏃が出土した他、破砕礫が多数出土している。なお、E区の北側の斜面部ではアカホヤ火山灰層（基本層序II b層）の上層に二次堆積のアカホヤ火山灰層（基本層序II a層）の堆積が認められた。また、E区の北側の斜面地にはII a層の上部に堆積するI b層（造成層）には、多量の高原スコリア火山灰（御鉢岳起源、AD1235年降灰）が含まれていた。



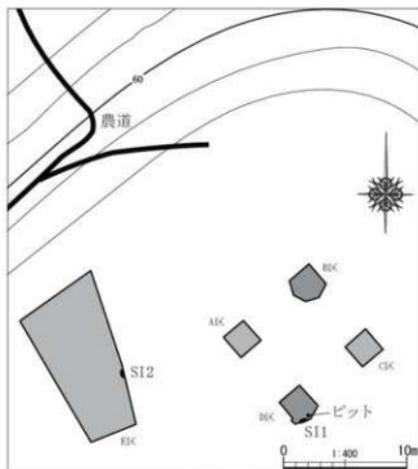
第24図 松ノ元遺跡基本土層図(S=1/30)

## 第2節 遺構について

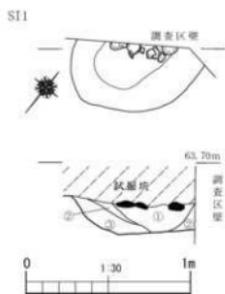
今回の松ノ元遺跡の調査で明確に遺構として認められたものはD区で検出された1号集石遺構とE区で検出された2号集石遺構である。この他、D区からはピットが1基確認されているが、これについての取り扱いについては後述する。

### 1号集石遺構(第26図)

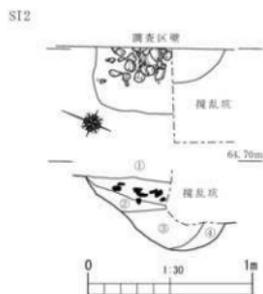
D区南側の調査区壁付近で検出された。遺構の大半は調査区外に広がると思われる。この遺構は事前に実施された試掘調査で検出され、遺構上部を土入りの土嚢袋で保護し、本格的な発掘調査を待った。基本層序VII層上面で検出され、遺構上部には試掘調査時の埋め戻し土が覆っていたが、試掘調査時この集石遺構の覆土は攪乱層だったことが記録され



第25図 松ノ元遺跡遺構配置図 (S=1/400)

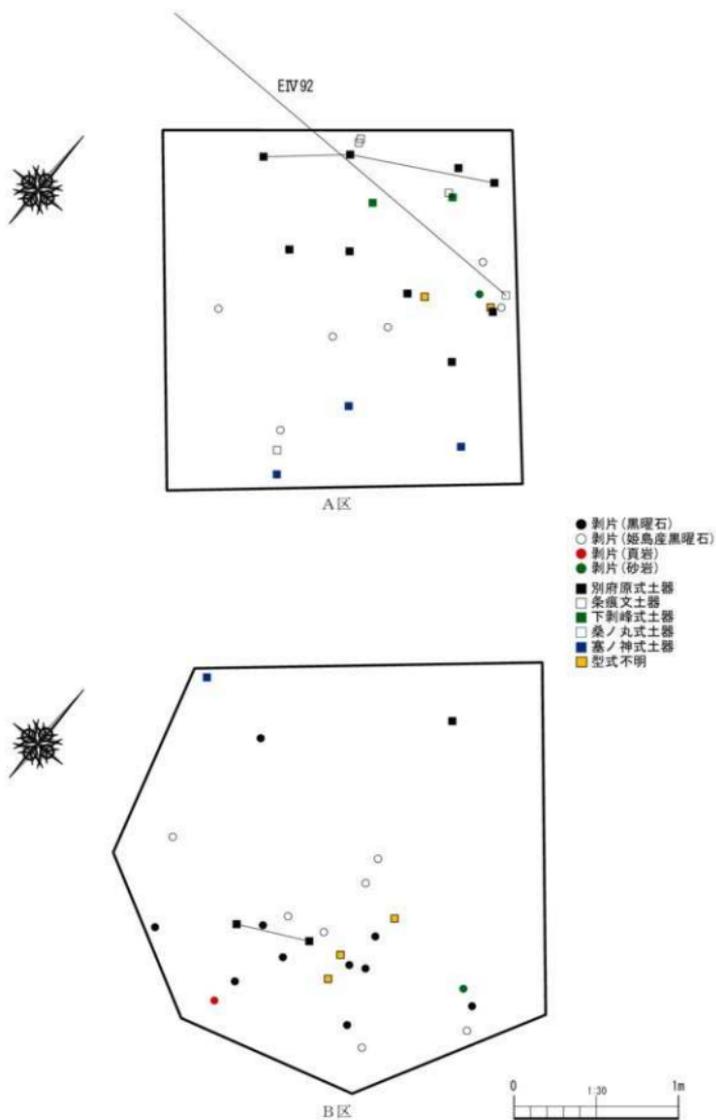


- ①黒褐色土 (5YR2/1)  
シルト質。しまりがあり、上位に円礫が配され、全体にわずかに破砕礫が混入する。基本層序III層に色は似るが、ローム質ではない。
- ②暗褐色土 (10YR3/3)  
シルト質。しまりがあり、①と③の漸的な層と思われる。
- ③にがい黄褐色土 (5YR5/3)  
シルト質。しまりがある。

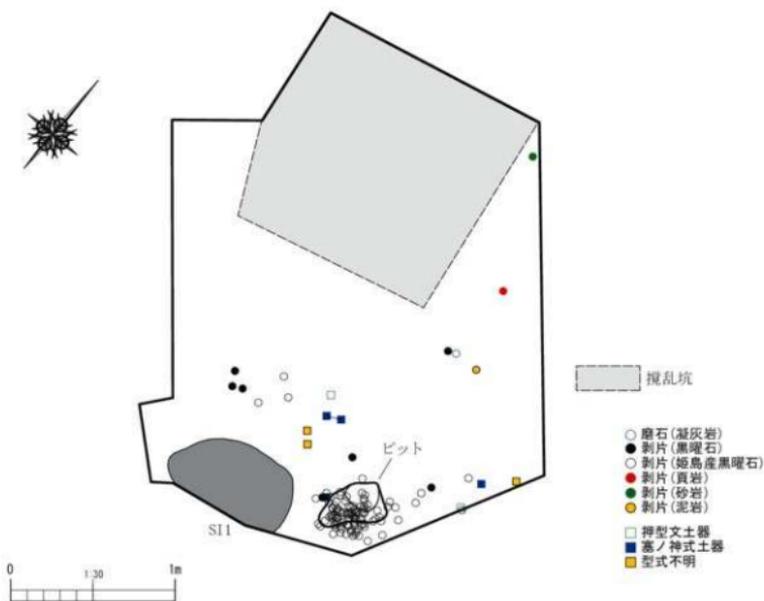


- ①灰黄褐色土 (10YR4/2)  
シルト質。遺構堆積の最上層と思われる。基本層序III層に似るが、僅かに明るい。礫はこの層から集中して出土
- ②黄褐色土 (10YR5/6)  
シルト質。しまりがあり、やや硬質。礫をほとんど含まない。1~2cm程の破砕礫を僅かに含む。
- ③褐色土 (10YR4/4)  
シルト質。しまりがあり、やや硬質。礫をほとんど含まない。1~2cm程の破砕礫を僅かに含む。
- ④暗褐色土 (10YR3/3)  
シルト質。しまりがあり、やや硬質。礫をほとんど含まない。1~2cm程の破砕礫を僅かに含む。

第26図 松ノ元遺跡縄文早期集石遺構実測図 (S=1/30)



第27図 松ノ元遺跡A区・B区遺物分布図(S=1/30)

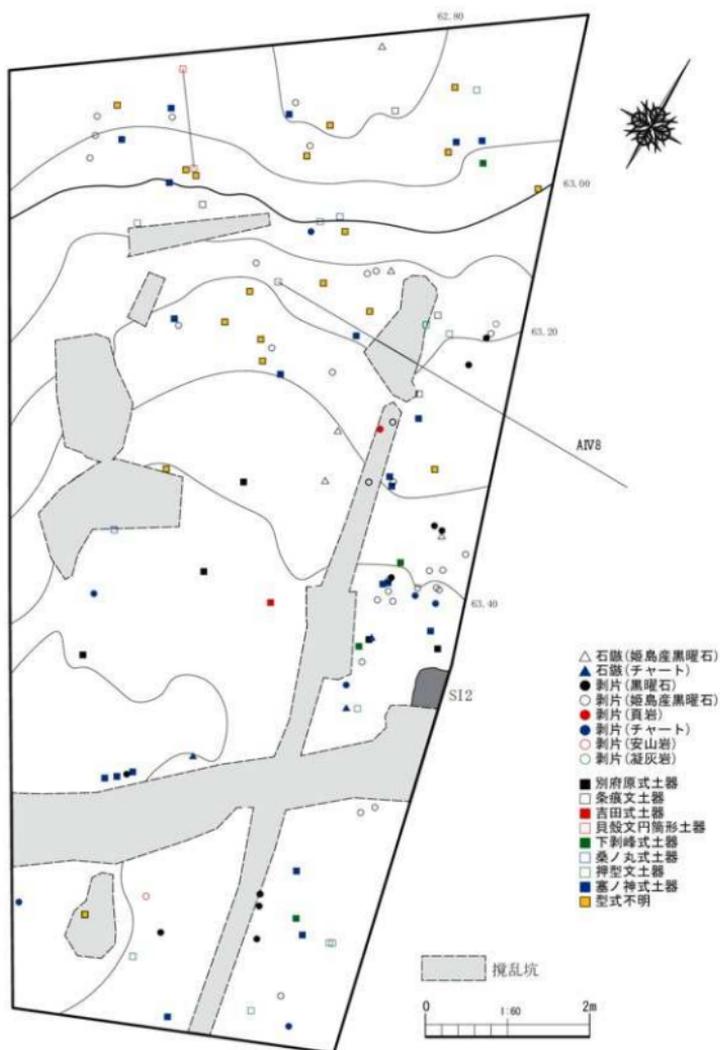


第28図 松ノ元遺跡D区遺物分布図(S=1/30)

ており、本来の構築層を確認することができなかった。残存している部分のサイズは最大幅0.7m、深さ0.3mの断面形が逆台形を呈する掘り込みを持つ。礫は平面分布では遺構の中央部で固まるように分布し、掘り込み上部に水平に堆積するように確認された。掘り込みに黒色土が一定期間自然堆積したのちに礫の分布が見られることから、通常の集石遺構とは異なる用途の可能性も考えられる。

## 2号集石遺構(第26図)

E区中央部よりやや南寄りの調査区壁付近で検出された。遺構の大半は調査区外に広がると思われ、遺構の南側は攪乱坑により欠損しており、遺構全体の1/5～1/6程度の検出と思われる。基本層序Ⅲ層下位で検出された。残存している部分のサイズは最大幅1.0m、深さ0.4mの断面形がさらさら鉢状を呈する掘り込みが見られるが、遺構の最深部は調査区外にあると考えられる。1号集石遺構同様、礫の出土は平面分布では中央部に偏り、掘り込み上部に水平に堆積するように確認され、やはり、掘り込みに土壌が一定期間自然堆積したのちに礫の分布が見られる。ただし1号集石遺構とは異なり、掘り込み内には褐色ローム土を主体とする土壌が堆積していることから、1号集石遺構とは異なる時期の構築が考えられる。



第29図 松ノ元遺跡E区遺物分布図(S=1/60)

### ピット(第28図)

D区南側の1号集石遺構の東側で確認された。基本層序Ⅶ層上面で検出され、遺構内にはローム質の暗褐色土が堆積する。平面形は不定形で最大幅0.4m、深さ0.15mの掘り込みであるが、歪な平面形であることから樹根痕など人為的な掘り込みではない可能性も考えられる。しかし、このピットを中心に、1～10mm大の姫島産黒曜石のチップが101点出土しており、傍らで石蔵などの石器生産を行っていた可能性が考えられる。

### 第3節 遺物について(第30～32図)

53はA区の基本層序Ⅸ層から出土した頁岩製の使用痕剥片で、側縁に使用痕が認められる。A区の基本層序Ⅸ層からは、実測には至っていないが、砂岩製の剥片が2点出土している。基本層序Ⅻ層がシラス(始良カルデラ起源の火砕流堆積物、約26000～29000年前)であるため、それ以降の資料と考えられる。今回の調査で、いずれの調査区においても相当層における確認を行ったが、旧石器の文化層が認められたのはA区のみだった。

54～93、96、97は基本層序Ⅲ層、Ⅳ層出土の土器である。54は吉田式土器と考えられ、条痕のちに楔形の突起文を施す。55は口唇部に貝殻刺突を施しており、前平式土器と考えられる。

56～59は別府原式土器の一群である。56は口縁部に向かい直線的に開き、口縁部付近に穿孔が見られる。59は内湾気味に開く。それぞれ外面には条痕を施し、56・57・59の内面は丁寧仕上げられ、57はミガキが見られる。

60～63は下剥峰式土器の一群である。60は口縁部がわずかに開き、端部に細かい刻目を施す。外面には貝殻刺突文を施すが、貝殻復縁を横位に4段以上施す。61は羽状に、62は斜位気味に、63は縦位に刺突文を施す。

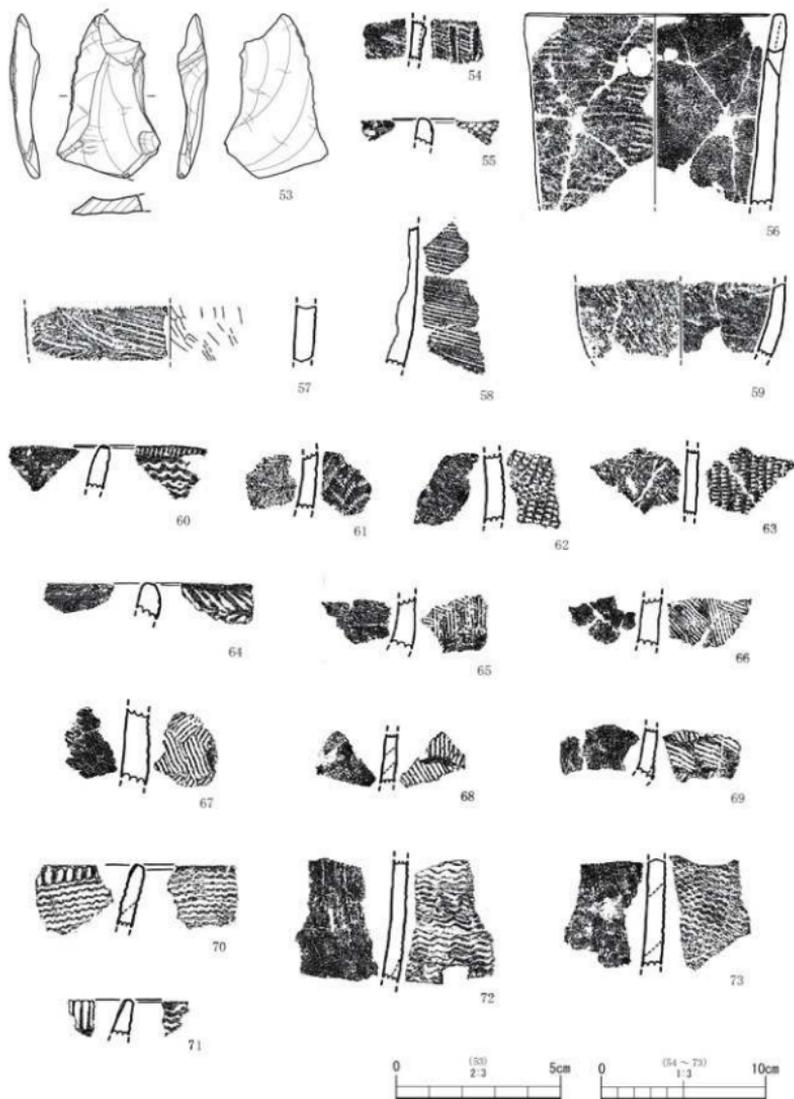
64～69は桑ノ丸式土器の一群である。64は口縁部外面に短沈線による羽状文が見られる。65～69は胴部資料で、65、69は僅かに内湾気味になる。胴部外面には統一して羽状文を施すが、個体ごとにバリエーションが見られる。

70～77は押型土器の一群である。70～76は山型押型文を、77・78楕円押型文を外面に施す。70は口縁部内面に縦方向の短沈線を施し、その下部にも山型押型文を施す。口縁部内面の短沈線は71にも見られる。76は底部で、平底を基調としているが、接地面がレンズ状に膨らむ。押型文は下部まで施される。

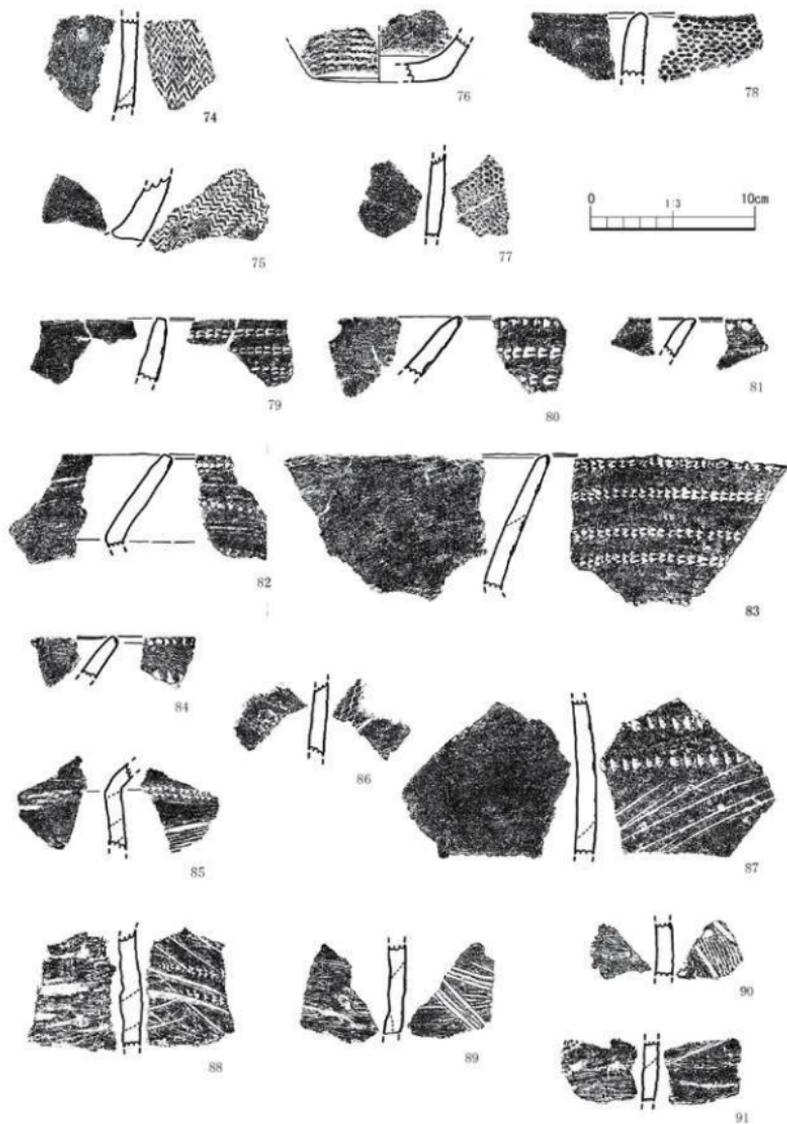
79～93は塞ノ神式土器の一群である。79～84は口縁部で、いずれもキャリパー型を呈するタイプのもと考えられ、80～84には口唇部に貝殻連続刺突文を施し、その下部には数段の連続押引文が見られる。85～93は胴部で、85、87、88には口縁部にもみられた連続押引文を施す。86は平行沈線間に燃糸文を、85、90、92、93は平行沈線間に縄文を施す。また、斜位方向に多くの沈線を施すものも多い。

94、95は春日式土器である。94は口縁部に向かい内湾し、端部で広がり、95は外開きの口縁部を持つものの端部に瘤状の突起が見られいずれも特徴的な口縁形態である。

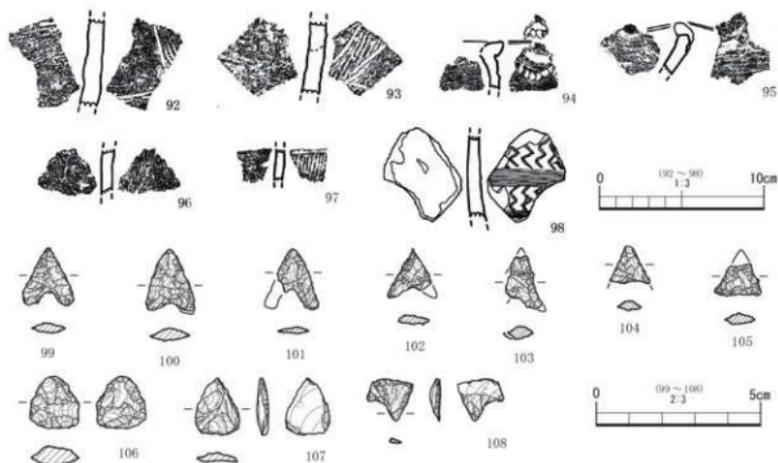
98は弥生期の高環の脚柱部で、残存部の中位と下位に幅狭の平行沈線帯が2段見られその間に鋸歯状の文様を縦位に施す。この鋸歯状の文様は刷毛状工具の小口部分を押しつけて施している。



第30图 松ノ元遺跡Ⅲ層・Ⅳ層・Ⅹ層出土遺物実測図 (S=1/3・2/3)



第31図 松ノ元遺跡Ⅲ層・Ⅳ層出土遺物実測図①(S=1/3)



第32図 松ノ元遺跡Ⅲ層・Ⅳ層出土遺物実測図②(S=1/3・2/3)

99～105は石鏃で、99がチャート製、100・101・103・104が姫島産黒曜石製、102・105が桑ノ木津留産黒曜石製である。平面形にバリエーションが見られる。105は平面形が正三角形を呈し、基部の挟りがほとんど見られない。99、102は平面形が正三角形を呈し99はU字の挟り、102はV字の挟りが見られる。100、101、103は平面形が二等辺三角形を呈し、100は挟りが浅く、101は挟りが深い。

106、107は石鏃の未製品である。106はチャート製で剥片を素材とし、両面調整を施し、平面形は三角形様を呈するが厚みが分厚い。107は姫島産黒曜石製で、片面調整を主とし、平面形が二等辺三角形を呈するが、側縁部に刃部加工が見られ、スクレイパーの可能性もある。チャート製の108も石鏃様の挟りが見られるが、細かい刃部加工が見られることから、スクレイパー可能性も考えられる。99～104、106～108は基本層序Ⅲ層・Ⅳ層出土で、縄文時代早期に相当する資料である。

94、95は縄文時代中期の春日式土器、98は弥生時代中期から後期初頭の高坏の脚部と考えられる。それぞれ層位横転層、表土層と攪乱された層からの出土であり、本来は基本層序Ⅱ層（アカホヤ火山灰層）の上部層から出土すべき遺物である。今回の調査では基本層序Ⅱ層以上では遺構も含め、文化層を確認することができなかったが、94、95、98の存在は、アカホヤ火山灰堆積以後の時期も当該地において生業があったことを示している。



A区IV層遺物出土状況  
(北東より)



A区IX層遺物出土状況①  
(北東より)



A区IX層遺物出土状況②



B区 IV層遺物出土状況  
(北東より)



B区完掘状況  
(北東より。X層まで確認)



C区完掘状況  
(北東より。XI層上面まで確認)



D区 S11 検出状況  
(東より)



D区黒曜石出土状況①  
(竹串の根本が出土位置)



D区黒曜石出土状況②  
(竹串の根本が出土位置)



Dピット完掘状況  
(北より)

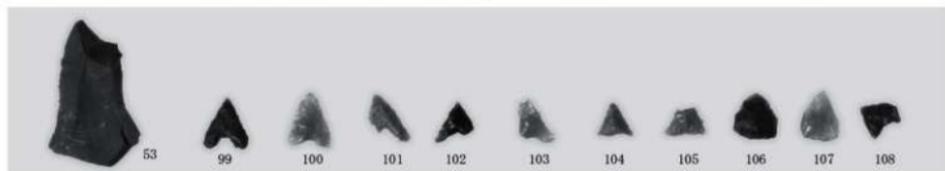
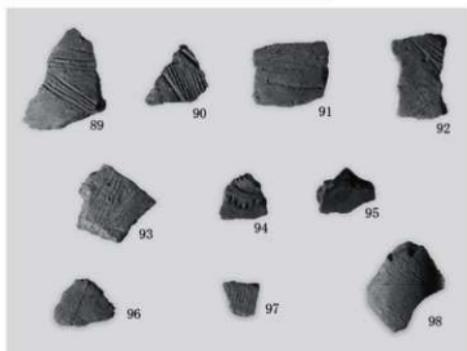
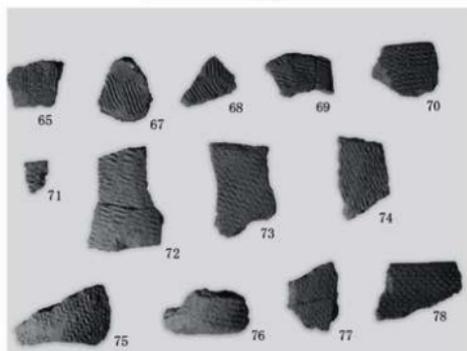
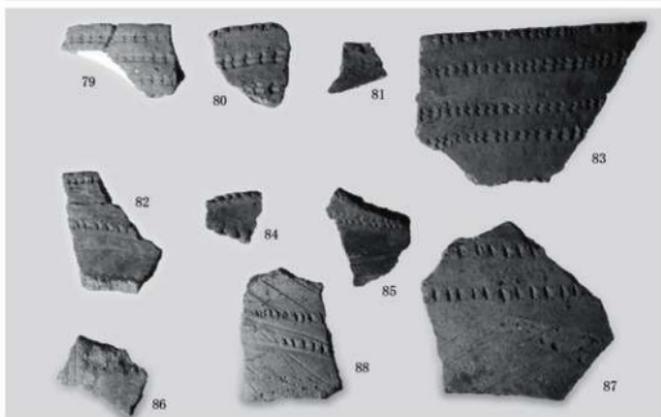
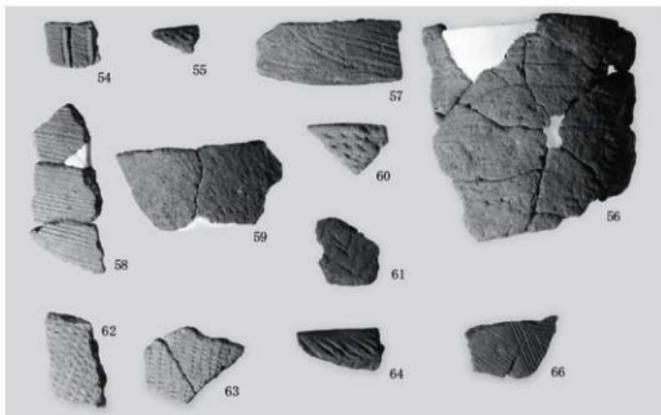


E区 IV層遺物出土状況  
(北西より)



E区 S12 検出状況  
(西より)

圖版 11



第1表 橋上遺跡第5地区出土土器観察表

発掘調査番号	番号	遺構等	種別	位置(m) ( ): 基点			色調		地味	調整 文様		胎土(上:mm 下:μ)					備考	実測番号	
				距離	口径	底径	器高	外面		内面	外面	内面	A	B	C	D			E
P10 第5区	1	SC	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR6/3	10YR6/3 にぶい・黄褐色	良好	貝殻糸痕文	ナゲ		2					別府形式	2
	4	4Tr IV	縄文土器	—	—	—	10YR6/3	10YR6/3	良好	貝殻糸痕文 貝殻糸痕文 (不明瞭)	ナゲ		2	2				前平式	1
			深鉢	—	—	—	にぶい・黄褐色	にぶい・黄褐色					多	少					
	5	2Tr IV	縄文土器	—	—	—	10YR5/3	10YR5/2	良好	貝殻糸痕文 貝殻糸痕文 (不明瞭)	ナゲ		1					前平式	7
			深鉢	—	—	—	にぶい・黄褐色	灰黄褐色					少						
	6	4Tr IV	縄文土器	—	—	—	10YR5/3	10YR5/3	良好	貝殻糸痕文 貝殻糸痕文	ナゲ		1					前平式	9
			深鉢	—	—	—	にぶい・黄褐色	にぶい・黄褐色					少						
	7	4Tr IV	縄文土器	—	—	—	10YR5/3	10YR5/2	良好	貝殻糸痕文 貝殻糸痕文 (不明瞭)	ナゲ							前平式	10
			深鉢	—	—	—	にぶい・黄褐色	灰黄褐色					多						
	8	2Tr IV	縄文土器	—	—	—	10YR6/4	7.5YR5/2	良好	貝殻糸痕文	ナゲ		2					別府形式	8
			深鉢	—	—	—	にぶい・黄褐色	灰褐色					多						
	9	4Tr IV	縄文土器	—	—	—	10YR6/3	7.5YR5/2	良好	貝殻糸痕文	丁寧なナゲ							別府形式	11
			深鉢	—	—	—	にぶい・黄褐色	灰褐色											
10	2Tr IV	縄文土器	—	—	—	2.5Y5/3	10YR6/3	良好	貝殻糸痕文	ナゲ		2					別府形式	5	
		深鉢	—	—	—	黄褐色	にぶい・黄褐色					多							
11	1Tr IV	縄文土器	—	—	—	2.5YR5/3	7.5YR5/2	良好	貝殻糸痕文	ナゲ		1						6	
		深鉢	—	—	—	にぶい・黄褐色	灰褐色					多							
12	2Tr IV	縄文土器	—	—	—	5YR6/4	10YR6/3	良好	ナゲ	ナゲ		1					別府形式	4	
		深鉢	—	—	—	にぶい・黄褐色	にぶい・黄褐色					少							
13	4Tr IV	縄文土器	—	—	—	2.5YR5/2	10YR6/3	良好	貝殻糸痕文	ナゲ		1.5					中平式	3	
		深鉢	—	—	—	暗灰黄褐色	にぶい・黄褐色					多							

第2表 橋上遺跡第6地区出土土器観察表

発掘調査番号	番号	遺構等	種別	位置(m) ( ): 基点			色調		地味	調整 文様		胎土(上:mm 下:μ)					備考	実測番号	
				距離	口径	底径	器高	外面		内面	外面	内面	A	B	C	D			E
P10 第5区	25	SI-1	縄文土器 深鉢	—	0.90	—	10YR6/3	10YR6/3 にぶい・黄褐色	良好	貝殻糸痕文	ナゲ		1	1				別府形式	1
	27	1Tr IV	縄文土器	—	—	—	10YR6/4	10YR6/4	良好	貝殻糸痕文 貝殻糸痕文の 後ナゲ	ナゲ		1	1				前平式	4
			深鉢	—	—	—	にぶい・黄褐色	にぶい・黄褐色					多	多					
	28	1Tr IV	縄文土器	—	—	—	10YR6/4	7.5YR6/4	良好	貝殻糸痕文	貝殻糸痕文の 後ナゲ		1					別府形式	5
			深鉢	—	—	—	にぶい・黄褐色	にぶい・黄褐色					多						
	29	4Tr III	縄文土器	—	—	—	10YR5/2	10YR5/2	良好	ナゲ	ナゲ		2					無文	7
			深鉢	—	—	—	灰黄褐色	灰黄褐色					多						
	30	3Tr IV	縄文土器	—	—	—	7.5YR4/1	10YR5/2	良好	胎付変態にキ ザミ ナゲ	ナゲ		1					砂見式	10
			深鉢	—	—	—	褐色	灰黄褐色					少						
	31	1Tr IV	縄文土器	—	—	—	5YR4/4	7.5YR5/4	良好	漆点文 筋線文(不明瞭)	ナゲ		1	1	2			平塚式 器状口縁	2
			深鉢	—	—	—	にぶい・黄褐色	にぶい・黄褐色					少	少	少				
	32	3Tr IV	縄文土器	—	—	—	10YR5/2	10YR5/3	良好	縄文	ナゲ		1						9
			深鉢	—	—	—	灰黄褐色	にぶい・黄褐色					少						
	33	3Tr IV	縄文土器	—	—	—	5YR5/4	10YR6/3	良好	貝殻糸痕文 (不明瞭)	ナゲ		2						12
			深鉢	—	—	—	にぶい・黄褐色	にぶい・黄褐色					多						
34	3Tr IV	縄文土器	—	—	—	10YR5/3	10YR5/2	良好	漆点文 筋線文 縄文	ナゲ		1	1.5				前平式	6	
		深鉢	—	—	—	にぶい・黄褐色	灰黄褐色					少	少						
35	3Tr 器・ 3Tr IV	縄文土器	—	—	—	7.5YR5/3	7.5YR5/3	良好	縄文	ナゲ		2	1	1				11	
		深鉢	—	—	—	にぶい・黄褐色	にぶい・黄褐色					少	少	多					
36	3Tr IV	縄文土器	—	—	—	5YR5/4	5YR5/4	良好	ナゲ	ナゲ		1						8	
		深鉢	—	—	—	にぶい・黄褐色	にぶい・黄褐色					多							
37	1Tr IV	縄文土器	—	—	—	7.5YR6/4	10YR6/3	良好	漆点文 筋線文	糸痕の後ナゲ		1					前平式	3	
		深鉢	—	—	—	にぶい・黄褐色	にぶい・黄褐色					少							

※胎土: A: 宮崎小石 B: 長石・石英 C: 輝石・角閃石 D: 雲母 E: くさり礫

第3表 浦之名上原遺跡出土土器観察表

掲載 図番号	番号	遺構等	種別	造形(cm) ( ) : 単位			色調		地味	調整 文様		胎土(上:mm 下:粒)					備考	実測 番号	
				器種	口径	底径	器高	外面		内面	外面	内面	A	B	C	D			E
P26 第22図	42	Hr IV	縄文土器 深鉢	—	(11.0)	—	2.5YR5/3 にふい+黄	2.5YR5/4 にふい+黄	良好	貝殻条痕文	ナツ	1.5 多	1 少				前半式	3	
	43	Hr 5C + 8皿	縄文土器 深鉢	—	(13.6)	—	5YR4/3 にふい+赤褐	5YR6/3 にふい+赤褐	良好	貝殻条痕文 砥石目子文	ナツ	1.5 多	1 少				加藤山式	6	
	44	Hr IV	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR6/4 にふい+黄緑	2.5YR6/3 にふい+黄	良好	貝殻条痕文	丁寧なナツ	1 多	1 多				別府形式	2	
	45	Hr IV	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR7/3 にふい+黄緑	10YR7/3 にふい+黄緑	良好	貝殻条痕文	丁寧なナツ	2 多					別府形式	1	
	46	Hr IV	縄文土器 深鉢	—	—	—	2.5YR6/3 にふい+黄	2.5YR5/3 にふい+黄	良好	楕円押型文	ナツ	1.5 少					押型文	9	
	47	Hr IV	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/3 にふい+黄褐	良好	ミガキ	丁寧なナツ	1 多	1 少					5	
	48	Hr IV	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR6/4 灰黄褐	10YR6/3 にふい+黄褐	良好	ナツ	ナツ	1.5 多	1 多					4	
	49	Hr	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR5/2 灰黄褐	2.5Y4/1 黄灰	良好	ミガキ	ナツ	1 多						8	
	50	Clr IV	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR6/3 にふい+黄緑	10YR6/3 にふい+黄緑	良好	ナツ	ナツ	1 多						7	

第4表 松ノ元遺跡出土土器観察表①

掲載 図番号	番号	遺構等	種別	造形(cm) ( ) : 単位			色調		地味	調整 文様		胎土(上:mm 下:粒)					備考	実測 番号	
				器種	口径	底径	器高	外面		内面	外面	内面	A	B	C	D			E
P27 第30図	54	E IV	縄文土器 深鉢	—	—	—	2.5YR5/3 にふい+黄	2.5YR5/4 にふい+黄	良好	横形条痕文 条痕文	ナツ		1 少				古田式	17	
	55	A IV	縄文土器 深鉢	—	—	—	2.5Y4/1 黄灰	10YR4/2 灰黄褐	良好	貝殻刺突文 ナツ	ナツ		1 僅				前半式	13	
	56	E IV	縄文土器 深鉢	(13.2)	—	—	2.5YR6/4 にふい+黄	2.5YR6/4 にふい+黄	良好	貝殻条痕文 (不明)	ナツ	2.5 多	1 少				別府形式 習孔有	34	
	57	C オウ ン	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR6/3 にふい+黄緑	2.5YR5/2 灰褐	良好	貝殻条痕文	ミガキ	1 多					別府形式	18	
	58	H IV	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR6/4 にふい+黄褐	2.5Y5/2 暗灰黄	良好	貝殻条痕文	刺突	1 多					別府形式	42	
	59	E 皿	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR6/3 にふい+黄褐	10YR5/2 灰黄褐	良好	条痕の混ナツ	ナツ	1 多	1 少				不明 別府形式小	41	
	60	A IV	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR6/4 にふい+黄緑	10YR5/3 にふい+黄	良好	貝殻刺突文	ナツ		1 少				口唇部にホ ザミ 下割線式	29	
	61	A IV	縄文土器 深鉢	—	—	—	2.5YR5/2 灰褐	2.5YR4/2 灰褐	良好	貝殻刺突文に よる目状文	ナツ	3 多					下割線式	30	
	62	C I	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR6/3 にふい+黄緑	2.5Y5/2 暗灰黄	良好	貝殻刺突文	ナツ	1 少					下割線式	19	
	63	H IV	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR6/3 にふい+黄緑	2.5Y4/1 黄灰	良好	貝殻刺突文	ナツ		1 少				下割線式	21	
	64	E 皿	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	良好	屈曲線による 目状文 ナツ	ナツ	0.5 多	1 僅				巻ノ丸式	33	
	65	E 皿	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR5/3 にふい+黄褐	2.5Y4/1 黄灰	良好	屈ノ目・貝殻条痕 による目状文 ナツ	ナツ		1 少	1 少			巻ノ丸式	24	
	66	E IV	縄文土器 深鉢	—	—	—	2.5YR6/3 にふい+黄	2.5YR4/1 黄灰	良好	屈ノ目・貝殻条痕 による目状文 ナツ	ナツ		1 多				巻ノ丸式	26	
	67	E IV	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR5/2 灰黄褐	2.5YR5/2 灰褐	良好	屈ノ目・貝殻条痕 による目状文 ナツ	丁寧なナツ	1.5 僅					巻ノ丸式	25	
	68	C オウ ン	縄文土器 深鉢	—	—	—	2.5YR5/4 にふい+黄	2.5Y4/1 黄灰	良好	屈ノ目・貝殻条痕 による目状文 ナツ	ナツ		2 多				巻ノ丸式	27	
	69	A IV+E IV	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/4 にふい+赤褐	10YR5/3 にふい+黄褐	良好	屈ノ目・貝殻条痕 ナツ	ナツ		2 多				巻ノ丸式	23	
	70	E IV	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR5/3 にふい+黄緑	10YR6/3 にふい+黄緑	良好	山形押型文	楕円条痕文 山形押型文	3 多	2 少				押型文	9	
	71	E IV	縄文土器 深鉢	—	—	—	2.5YR6/4 にふい+黄	2.5YR6/4 にふい+黄	良好	山形押型文 ナツ	楕円条痕文 ナツ		1 僅				押型文	12	

※胎土: A:宮崎小石 B:長石・石英 C:輝石・角閃石 D:雲母 E:くさり礫

第5表 松ノ元遺跡出土土器観察表②

発掘調査番号	番号	遺構等	種類	出處(m)			色調		地味	調整		胎土(上:下:横)					備考	実測番号	
				距離	口径	底径	器高	外面		内面	外面	内面	A	B	C	D			E
P28 第五区	72	F・IV	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR6/3	2.5Y5/2	良好	山形押型文	ナゲ	1	2			押型文	15		
	73	E・I	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR5/3	10YR6/3	良好	山形押型文	ナゲ	2				押型文	8		
			深鉢	—	—	—	10YR6/3	10YR6/3	良好	山形押型文	ナゲ	3				押型文	11		
	74	H・IV	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR6/4	10YR6/4	良好	山形押型文	ナゲ	2	2			押型文	36		
			深鉢	—	—	—	10YR6/3	10YR5/1	良好	山形押型文	ナゲ	1	1			押型文	38		
	75	D・IV	縄文土器 深鉢	—	—	—	2.5YR5/2	10YR5/3	良好	山形押型文	ナゲ	2	1			押型文	44		
			深鉢	—	—	—	2.5YR5/4	10YR5/2	良好	山形押型文	ナゲ	2	1			押型文	38		
	76	E・IV	縄文土器 深鉢	—	—	—	2.5YR5/4	10YR5/2	良好	山形押型文	ナゲ	2	1			押型文	44		
			深鉢	—	—	—	2.5YR5/3	10YR5/3	良好	山形押型文	ナゲ	2	1			押型文	38		
	77	E・IV	縄文土器 深鉢	—	—	—	2.5YR5/4	10YR5/2	良好	山形押型文	ナゲ	2	1			押型文	44		
深鉢			—	—	—	2.5YR5/3	10YR5/3	良好	山形押型文	ナゲ	2	1			押型文	38			
78	D・IV	縄文土器 深鉢	—	—	—	2.5YR5/4	10YR5/2	良好	山形押型文	ナゲ	2	1			押型文	44			
		深鉢	—	—	—	2.5YR5/3	10YR5/3	良好	山形押型文	ナゲ	2	1			押型文	38			
79	A・IV	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR6/3	10YR5/3	良好	山形押型文	ナゲ	2				押型文	38			
		深鉢	—	—	—	10YR6/3	10YR5/3	良好	山形押型文	ナゲ	2				押型文	38			
80	E・I	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR5/3	10YR5/2	良好	山形押型文	ナゲ	2				押型文	38			
		深鉢	—	—	—	10YR5/3	10YR5/2	良好	山形押型文	ナゲ	2				押型文	38			
81	E・III	縄文土器 深鉢	—	—	—	2.5Y4/1	2.5Y4/1	良好	山形押型文	ナゲ	2				押型文	38			
		深鉢	—	—	—	黄灰	黄灰	良好	山形押型文	ナゲ	2				押型文	38			
82	E・IV	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/2	2.5YR5/2	良好	山形押型文	ナゲ	1				押型文	32			
		深鉢	—	—	—	灰褐色	灰褐色	良好	山形押型文	ナゲ	1				押型文	32			
83	D・IV	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR5/2	5YR5/3	良好	山形押型文	ナゲ	2				押型文	35			
		深鉢	—	—	—	灰褐色	10YR6/3	良好	山形押型文	ナゲ	2				押型文	35			
84	D・III	縄文土器 深鉢	—	—	—	2.5YR4/2	2.5YR5/2	良好	山形押型文	ナゲ	2	2			口部に貝 殻片が埋 入る	80			
		深鉢	—	—	—	灰褐色	灰褐色	良好	山形押型文	ナゲ	2	2			口部に貝 殻片が埋 入る	80			
85	E・IV	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR4/1	2.5YR5/3	良好	山形押型文	ナゲ	1				押型文	5			
		深鉢	—	—	—	黄灰	黄灰	良好	山形押型文	ナゲ	1				押型文	5			
86	E・IV	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR6/3	2.5YR5/3	良好	山形押型文	ナゲ	1				押型文	45			
		深鉢	—	—	—	10YR6/3	2.5YR5/3	良好	山形押型文	ナゲ	1				押型文	45			
87	E・III	縄文土器 深鉢	—	—	—	2.5YR5/3	2.5YR5/3	良好	山形押型文	ナゲ	1.5				押型文	6			
		深鉢	—	—	—	10YR6/3	2.5YR5/3	良好	山形押型文	ナゲ	1.5				押型文	6			
88	A・IV	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR6/2	10Y5/2	良好	山形押型文	ナゲ	1.5				押型文	7			
		深鉢	—	—	—	灰褐色	灰褐色	良好	山形押型文	ナゲ	1.5				押型文	7			
89	E・IV	縄文土器 深鉢	—	—	—	2.5YR5/3	10YR5/2	良好	山形押型文	ナゲ	1				押型文	10			
		深鉢	—	—	—	10YR5/3	10YR5/2	良好	山形押型文	ナゲ	1				押型文	10			
90	E・IV	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR5/1	2.5YR5/4	良好	山形押型文	ナゲ	1				押型文	43			
		深鉢	—	—	—	灰白	10YR6/3	良好	山形押型文	ナゲ	1				押型文	43			
91	B・I	縄文土器 深鉢	—	—	—	2.5YR6/3	2.5YR5/3	良好	山形押型文	ナゲ	1				押型文	37			
		深鉢	—	—	—	10YR6/3	2.5YR5/3	良好	山形押型文	ナゲ	1				押型文	37			
92	E・IV	縄文土器 深鉢	—	—	—	2.5YR5/3	2.5Y5/2	良好	山形押型文	ナゲ	2				押型文	3			
		深鉢	—	—	—	10YR6/3	2.5Y5/2	良好	山形押型文	ナゲ	2				押型文	3			
93	E・IV	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR5/2	2.5YR5/3	良好	山形押型文	ナゲ	1				押型文	4			
		深鉢	—	—	—	灰褐色	10YR6/3	良好	山形押型文	ナゲ	1				押型文	4			
94	C オウツ ン	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/3	5YR5/4	良好	山形押型文	ナゲ	0.5	1			口部に有 り	14			
		深鉢	—	—	—	10YR6/3	10YR6/3	良好	山形押型文	ナゲ	0.5	1			口部に有 り	14			
95	C オウツ ン	縄文土器 深鉢	—	—	—	2.5YR4/2	2.5YR4/2	良好	山形押型文	ナゲ	0.5	1			口部に有 り	31			
		深鉢	—	—	—	灰褐色	灰褐色	良好	山形押型文	ナゲ	0.5	1			口部に有 り	31			
96	D I+D III	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/4	5YR5/3	良好	山形押型文	ナゲ	2	1			古型?	16			
		深鉢	—	—	—	10YR6/3	10YR6/3	良好	山形押型文	ナゲ	2	1			古型?	16			
97	E・IV	縄文土器 深鉢	—	—	—	2.5YR5/3	10YR5/3	良好	山形押型文	ナゲ	1				古型?	22			
		深鉢	—	—	—	10YR6/3	10YR6/3	良好	山形押型文	ナゲ	1				古型?	22			
98	E・I	縄文土器 高弁	—	—	—	2.5YR6/4	2.5YR5/3	良好	山形押型文	ナゲ	1				古型?	20			
		高弁	—	—	—	10YR6/3	10YR6/3	良好	山形押型文	ナゲ	1				古型?	20			

胎土: A:宮崎小石 B:長石・石英 C:輝石・角閃石 D:雲母 E:くさり礫

第6表 橋上遺跡第5地区出土石器計測分類表

掲載頁	図番号	掲載番号	出土地点	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (kg)	備考	実測 %
P 10	第8図	2	SC3	石鏃	免ノ木津留産黒曜石	1.75	1.55	0.3	0.4		23
		3	SC3	鏃石	頁岩	4.85	2.00	1.30	19.10		12
		14	T14 IV	鏃石片	免ノ木津留産黒曜石	(2.50)	0.65	0.20	0.40	上部欠損	19
P 11	第9図	15	T14 IV	石鏃	免ノ木津留産黒曜石	1.00	0.95	0.28	0.20		21
		16	T14 IV	石鏃	免ノ木津留産黒曜石	1.40	(1.10)	0.23	(0.10)	基部欠損	22
		17	T12 IV	石鏃	免ノ木津留産黒曜石	1.35	1.20	0.20	0.20		24
		18	T14 IV	石鏃	免ノ木津留産黒曜石	2.05	2.16	0.70	1.80		20
		19	T12 IV	石鏃未製品	免ノ木津留産黒曜石	2.05	2.00	0.75	2.30		18
		20	T14 Ⅱ・IV	石鏃未製品	免ノ木津留産黒曜石	1.95	1.70	0.55	1.50		17
		21	T12 V	二次加工有芯削片	免ノ木津留産黒曜石	2.75	2.20	0.75	3.20		15
		22	T14 Ⅱ	削片	免ノ木津留産黒曜石	4.65	2.40	0.70	4.70		14
		23	T12 IV	削片	免ノ木津留産黒曜石	3.30	2.50	0.85	3.90		13
		24	T12 IV	石鏃	免ノ木津留産黒曜石	3.00	3.80	1.85	12.80		16

第7表 橋上遺跡第6地区出土石器計測分類表

掲載頁	図番号	掲載番号	出土地点	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (kg)	備考	実測 %
P 18	第15図	26	T13 IX	使用済有芯削片	頁岩	5.4	2.35	0.7	6.7		15
		28	T13 IV	石鏃	頁岩	2.75	1.80	0.60	2.20		16
		29	T14 IV	石鏃	総島産黒曜石	(3.35)	(1.55)	0.30	(0.80)	先端部・基部欠損	17
		40	T12 IV	鏃石	砂岩	6.70	6.10	2.95	112.30		14
		41	T14 IV	鏃石	足越山酸性岩	8.60	(4.90)	(3.80)	228.60	左半部欠損	13

第8表 浦之名上原遺跡出土石器計測分類表

掲載頁	図番号	掲載番号	出土地点	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (kg)	備考	実測 %
P 26	第22図	10	A1r IV	鏃石	砂岩	6.00	5.60	3.00	172.20		11
		11	B1r Ⅱ	鏃石	砂岩	6.90	7.10	4.00	267.50		10

第9表 松ノ元遺跡出土石器計測分類表

掲載頁	図番号	掲載番号	出土地点	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (kg)	備考	実測 %
P 27	第30図	1	A IX	削片	頁岩	(5.00)	(3.15)	0.90	(8.50)	基部剥離有	56
P 30	第32図	47	E IV	石鏃	チャート	1.80	1.55	0.32	0.80		46
		48	E IV	石鏃	総島産黒曜石	(1.90)	1.50	0.40	(0.80)	基部欠損	47
		49	E IV	石鏃	総島産黒曜石	1.85	(1.25)	0.25	(0.40)	基部欠損	50
		50	D IV	石鏃	免ノ木津留産黒曜石	(1.40)	(1.30)	0.40	0.40	先端部・基部欠損	52
		51	E IV	石鏃	総島産黒曜石	(1.65)	(1.10)	0.45	(0.60)	先端部・基部欠損	49
		52	E IV	石鏃	総島産黒曜石	(1.15)	(1.20)	0.30	(0.30)	基部欠損	48
		53	C オウレン	石鏃	免ノ木津留産黒曜石	(1.00)	1.40	0.40	(0.40)	先端部欠損	51
		54	E IV	石鏃未製品	チャート	1.60	1.30	0.70	1.70		53
		55	E Ⅱ	石鏃	総島産黒曜石	1.75	1.35	0.35	0.70	未製品か、石鏃の可能性	55
		56	E IV	石鏃	チャート	1.30	1.40	0.30	0.50		54

※( )は残存値

# 報告書抄録

ふりがな	うらのみょうちうきせきぐん						
書名	浦之名地区遺跡群						
副書名	特別高圧送電鉄塔建設事業にかかる埋蔵文化財調査報告書						
巻次							
シリーズ名	宮崎市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第135集						
編集者名	稲岡洋道 秋成雅博 石村友規						
発行機関	宮崎市教育委員会						
所在地	〒889-1696 宮崎市清武町西新町1番1号						
発行年月	2021年2月						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査原因	種別
橋上遺跡第5地区	宮崎市 高岡町 浦之名	45201	36-004	31° 57' 35"	131° 16' 23"	民間開発 (高圧送電 鉄塔建設)	集落
橋上遺跡第6地区				31° 57' 28"	131° 16' 18"		
浦之名上原遺跡			36-030	31° 57' 08"	131° 16' 38"		
松ノ元遺跡			36-029	31° 57' 01"	131° 17' 01"		
所収遺跡名	調査期間	調査面積	主な時代	主な遺構と遺物			
橋上遺跡第5地区	2017.11.27～12.21	16.8㎡	縄文	陥し穴状遺構、縄文土器、打製石鏃など			
橋上遺跡第6地区	2017.10.23～11.10	11.89㎡	旧石器 縄文	集石遺構、縄文土器、打製石鏃など			
浦之名上原遺跡	2017.10.23～11.27	24.59㎡	縄文	集石遺構、縄文土器など			
松ノ元遺跡	2017.10.12～12.25	89.4㎡	旧石器 縄文	集石遺構、縄文土器、打製石鏃など			
特記事項	橋上遺跡第5地区にて石鏃の製作空間を検出。						

宮崎市文化財調査報告書第135集

浦之名地区遺跡群

令和3年2月

宮崎市教育委員会